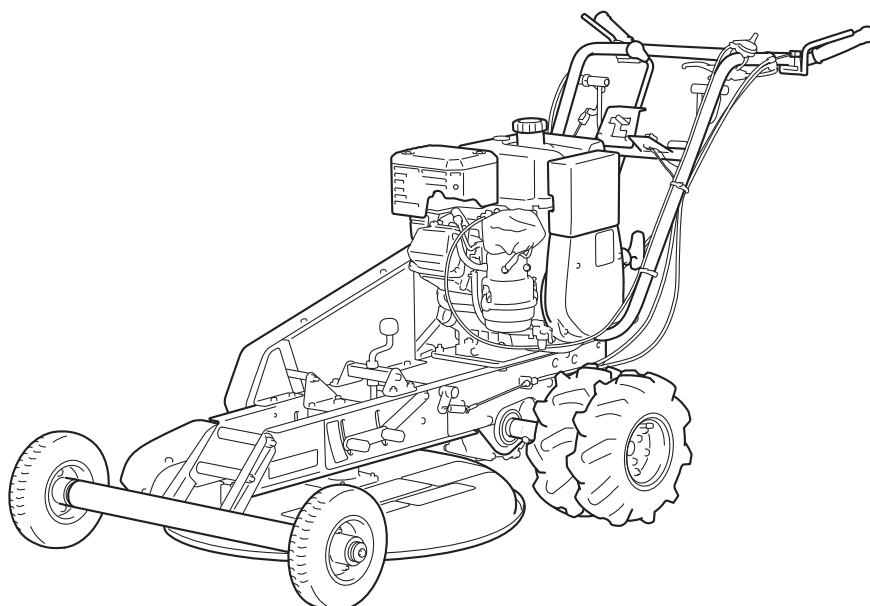


GM65BW

自走ロータリーモア

取扱説明書



Serial No. GM65BW : 30471-

「必読」
ご使用前に必ず本書をお読みください。

BARONESS®
Quality on Demand

Ver.1.2

GM65BW

ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。

いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

この機械のメンテナンスは、専門知識のある整備士が実施してください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽にバロネス販売代理店または弊社にお問い合わせください。

お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。

この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しください。

株式会社 共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

 696cq5-001	危険警告記号
この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。 いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。 これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。	
 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。	
 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。	
 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるもの、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。	
重要 製品の構造などの注意点を示しています。	

はじめに

使用上の注意

注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。

部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。

純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・ バロネス製品の取扱説明書
- ・ エンジンの取扱説明書

使用目的

この製品は、ゴルフ場や公園などの芝草刈り作業を目的とした機械です。

この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

安全	Page 1-1
安全上の注意事項	Page 1-2
廃棄	Page 2-1
リサイクルおよび廃棄処分	Page 2-2
製品概要	Page 3-1
仕様	Page 3-2
各部の名称	Page 3-3
規制ラベル	Page 3-3
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-4
取り扱い説明	Page 4-1
使用前の準備	Page 4-2
点検	Page 4-2
締め付けトルク	Page 4-8
使用前の調整	Page 4-10
エンジン始動・停止方法	Page 4-11
操作方法	Page 4-14
移動	Page 4-18
刈り込み	Page 4-18
運搬	Page 4-19
保管	Page 4-19
メンテナンス	Page 5-1
メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
ジャッキアップ	Page 5-5
注油	Page 5-6
メンテナンスの方法	Page 5-8

目次

安全上の注意事項 Page 1-2

トレーニング Page 1-2

使用する前に Page 1-2

運転・操作 Page 1-3

保守 Page 1-4

保管 Page 1-4

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転や検査を重ねた上で出荷しております。事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。この製品を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項**トレーニング**

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
各部の操作方法や警告ラベル、機械の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が本書で使用している言語が読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
トレーニングはオーナーの責任です。
4. 子供（18 才未満）や正しい運転知識の無い方には機械を使用させないでください。
地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他者に対する事故、あるいは器物損壊に対する責任があり、それらを防ぐことができます。
6. 他者に対する事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うことに留意してください。
7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
8. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

使用する前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。
メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。

2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、マスク、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。
長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれるおそれがあります。
裸足やサンダルで機械を使用しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。
オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。
エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。
6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。
これらが正しく機能しないときには機械を使用しないでください。
7. ブレーキの効きが悪い場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
9. マフラーが破損したら必ず交換してください。
10. 使用前にロータリーナイフ、ナイフ取り付けボルト、ナイフ取り付け状態を目視で点検してください。
バランスを狂わせないようにするために、磨耗や損傷したナイフとボルトはセットで交換してください。

運転・操作

1. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
2. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
3. エンジンを始動する前に、すべての駆動部を遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。
4. 本書の指示に従い、刈り取り部から足を十分に離れた位置でエンジンを始動させたり、モーターの電源を入れたりしてください。
5. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。
エンジンを規定以上の回転速度で使用すると、人身事故を起こす危険が増大します。
6. 高温部に触れないように注意してください。
7. ガードや安全保護装置が破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま機械を運転しないでください。
8. 回転部に手足を近づけないでください。
9. 機械の駆動中は、機械を持ち上げたり、運んだりしないでください。
10. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に機械を使用しないでください。
11. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
12. 落雷のおそれがあるときは、運転を中断して機械から離れてください。
13. 走らないでください。
14. 急停止、急発進しないでください。
15. できるだけ、濡れた草地での運転を避けてください。
16. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
17. 旋回するとき、道路を横切るときは減速し、周囲に十分注意してください。
18. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
19. わき見運転、手放し運転はしないでください。
20. 傾斜地では常に足元に注意してください。
21. 「安全な斜面」はありません。
芝生や草が生えた斜面での走行には特に注意が必要です。
転倒を防ぐために、次の指示に従ってください。
[1] 極端に急な傾斜地では機械を運転しない。
[2] 斜面では急停止、急発進しない。
- [3] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりにつなぐ。
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
- [4] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
- [5] 凸凹や穴、隠れた障害物が無いか常に注意する。
22. 決められた角度以上の傾斜地またはスリップの危険がある場所では、絶対に使用しない。
23. 作業時以外は、刈り取り部への駆動を停止してください。
24. 機械を離れる場合は次を厳守してください。
[1] 平らな場所に停止する。
[2] すべての駆動を停止する。
[3] 駐車ブレーキをかける。
[4] エンジンを停止する。
25. 以下のような状況になった場合には、エンジンを停止してください。
[1] 燃料を給油するとき。
[2] 作業高さや作業深さを調整するとき。
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
[3] 詰まりを取り除くとき。
[4] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
[5] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
26. エンジンを停止するときにはエンジン回転を下げてください。
27. 絶対に放出用防護カバーを上げたまま、または取り外したり、改造して作業しないでください。
28. 後進刈りをしないでください。
29. 人に向かって排出物を排出しないでください。
壁や障害物に対して排出物を排出しないでください。
排出物は、オペレーターに向かって跳ね返ることがあります。
30. 機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、輪止めをして行ってください。

トラックやトレーラーに積載して移動するときは、機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。

あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

31. 機械を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。

保守

1. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
2. 修理・調整・清掃作業の前には以下を行ってください。
 - [1] 平らな場所で機械を停止する。
 - [2] 刈り取り部への駆動を停止する。
 - [3] 駐車ブレーキをかける。
 - [4] エンジンを停止する。
 - [5] 点火プラグからワイヤーを抜く。
 - [6] 機械のすべての動きが完全に停止したことを確認する。
3. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
4. 火災防止のため、エンジンやマフラーなどの高温部、および燃料タンクの周囲に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
5. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
6. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
7. 可動部に手足を近づけないでください。
可能な限り、エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
8. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
9. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
10. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
11. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。

12. ロータリーナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。

必ず手袋を着用してください。

悪くなったロータリーナイフは必ず交換してください。

絶対に曲げ伸ばしや溶接で修理しないでください。

13. 燃料タンクから燃料を抜く場合は、屋外で作業をしてください。

保管

1. 閉めきった場所に機械を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
2. 機械にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
3. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
4. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
5. 炎の近くに燃料を保管しないでください。

リサイクルおよび廃棄処分Page 2-2

リサイクルについて Page 2-2

廃棄処分についてPage 2-2



リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。
また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。
(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

仕様	Page 3-2
仕様表	Page 3-2
各部の名称	Page 3-3
規制ラベル	Page 3-3
規制ラベル貼付位置	Page 3-3
規制ラベルの説明	Page 3-3
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-4
警告ラベルと指示ラベルについて	Page 3-4
警告ラベル・指示ラベル貼付位置	Page 3-4
警告ラベル・指示ラベルの説明	Page 3-5

製品概要

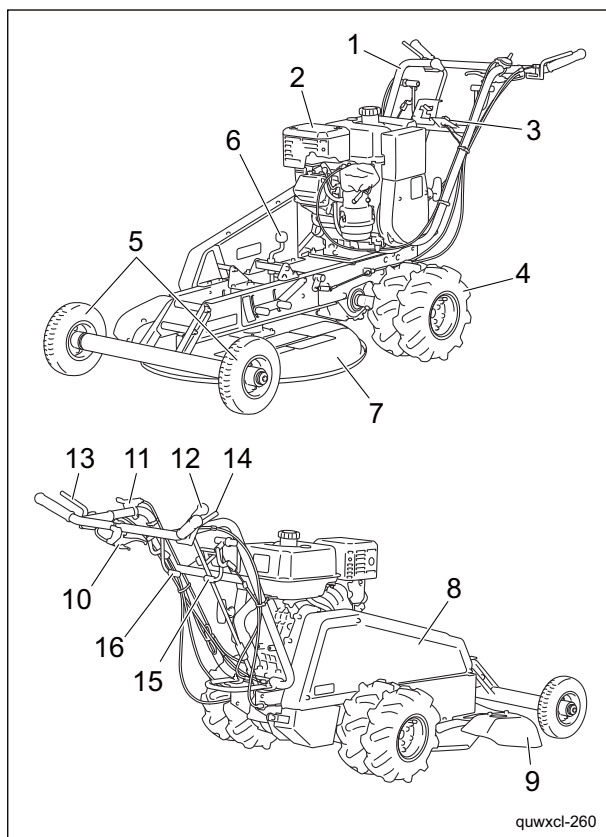
仕様

仕様表

型式		GM65BW	
寸法	全長	170 cm	
	全幅	92 cm	
	全高	80 cm	
質量	機械（燃料タンク空）	129 kg	
最小回転半径		-	
エンジン	型式	三菱 GB290PN	
	種類	空冷 4 サイクル傾斜形横軸 OHV ガソリンエンジン	
	総排気量	296 cm ³ (0.296 L)	
	最大出力	5.8 kW (8.0 PS) /4,000 rpm	
燃料タンク容量		ガソリン 6.0 dm ³ (6.0 L)	
燃料消費率		320 g/kW・h (定格出力時)	
エンジンオイル容量		1.0 dm ³ (1.0 L)	
冷却水容量		-	
油圧タンク容量		-	
ミッションオイル容量		0.8 dm ³ (0.8 L)	
刈刃ギアケースグリース量		140 - 150 g	
作業幅（刈幅）		63 cm	
作業範囲（刈高）		20.0 - 80.0 mm	
ロータリーナイフ数		1 枚	
駆動方式	走行	メカ切り替え方式	
	作業部	メカ方式	
速さ（HST）	前進	-	
	後進	-	
速さ（メカ）	前進	低速	2.5 km/h
		高速	4.0 km/h
	後進		1.9 km/h
能率		2,016 m ² /h (4.0 km/h x 刈幅 x 0.8)	
使用最大傾斜角度		25 度	
タイヤサイズ	前輪	2.50 - 4	
	後輪	3.50 - 5 (ラグ付ダブル車輪)	
タイヤ空気圧	前輪	350 kPa (3.5 kgf/cm ²)	
	後輪	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)	
バッテリー		-	
スパークプラグ		BP5ES	

出荷時のエンジン最高回転速度は、3,900±100 rpm

各部の名称

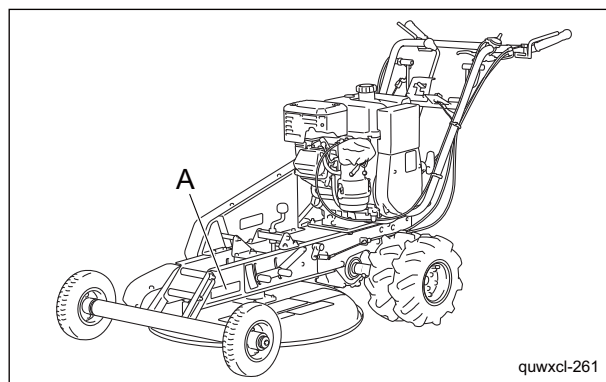


各部の名称_001

1	ハンドル
2	エンジン
3	エンジンスイッチ
4	後輪タイヤ
5	前輪タイヤ
6	刈高調節ハンドル
7	ロータリーカバー
8	ベルトカバー
9	防護カバー
10	駐車ブレーキレバー
11	スロットルレバー
12	主変速レバー
13	操向クラッチレバー (左)
14	操向クラッチレバー (右)
15	走行主クラッチレバー
16	刈刃主クラッチレバー

規制ラベル

規制ラベル貼付位置



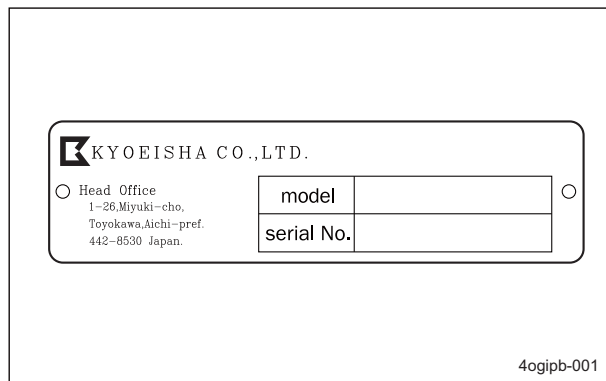
規制ラベル貼付位置_001

A	機番プレート
---	--------

規制ラベルの説明

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



機番プレート_001

警告ラベルと指示ラベル

警告ラベルと指示ラベルについて

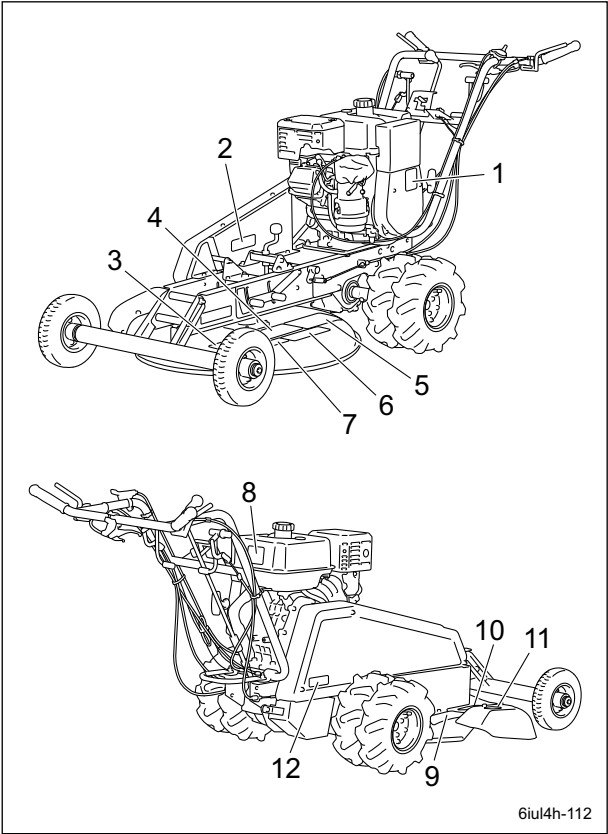
重要

この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。
ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。
販売代理店または弊社に注文してください。

警告ラベル・指示ラベル貼付位置

1	指示プレート
2	ベルト回転物注意マーク
3	運転前の注意事項ラベル
4	ロータリーナイフ注意事項
5	急傾斜地作業注意事項（1）
6	刈高締付注意マーク
7	エンジン注意プレート小
8	クラッチ注意事項
9	ロータリーモア危険マーク
10	カバー取付注意マーク
11	吹出口危険マーク
12	ベルト表示ラベル



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001

警告ラベル・指示ラベルの説明

指示プレート

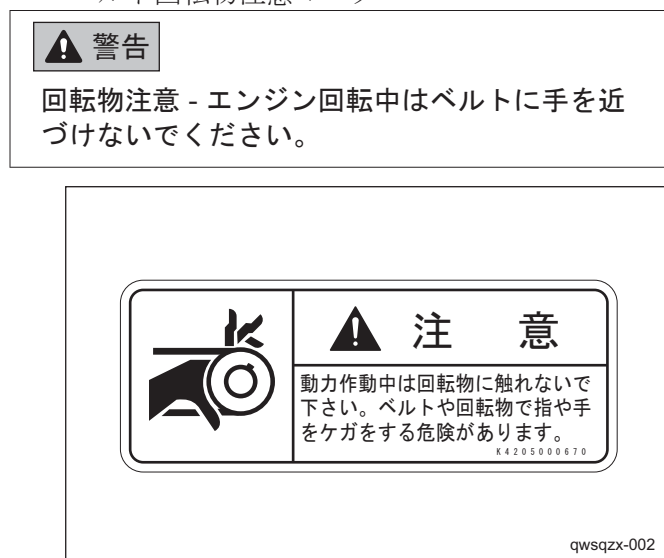
K4205000540
指示プレート
オーバーヒート防止の注意事項について記載されています。



指示プレート_001

ベルト回転物注意マーク

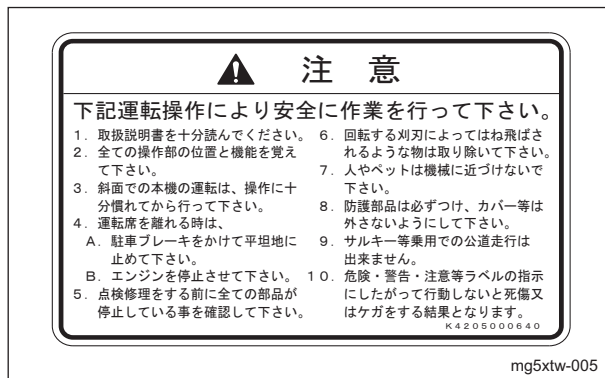
K4205000670
ベルト回転物注意マーク



ベルト回転物注意マーク_001

運転前の注意事項ラベル

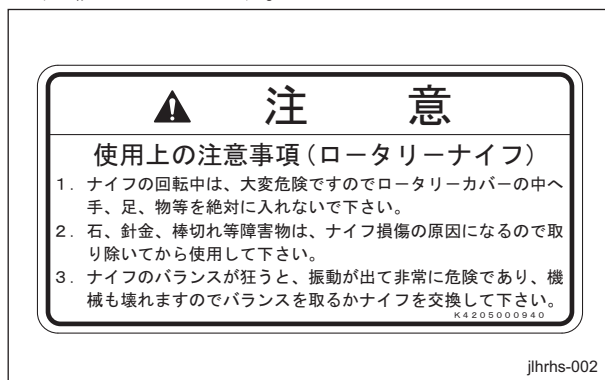
K4205000640
運転前の注意事項ラベル
運転操作の注意事項について記載されています。



運転前の注意事項ラベル_001

ロータリーナイフ注意事項

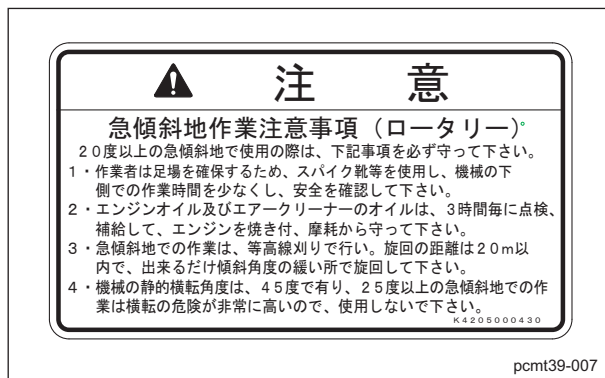
K4205000940
ロータリーナイフ注意事項
使用上の注意事項（ロータリーナイフ）について記載されています。



ロータリーナイフ注意事項_001

急傾斜地作業注意事項（1）

K4205000430
急傾斜地作業注意事項（1）
急傾斜地作業の注意事項について記載されています。



急傾斜地作業注意事項（1）_001

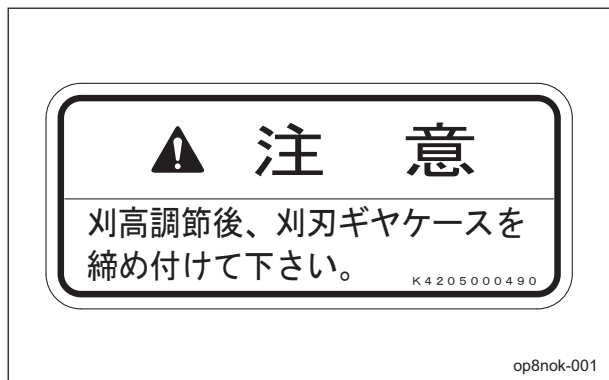
製品概要

刈高締付注意マーク

K4205000490

刈高締付注意マーク

刈高調整時の注意事項について記載されています。



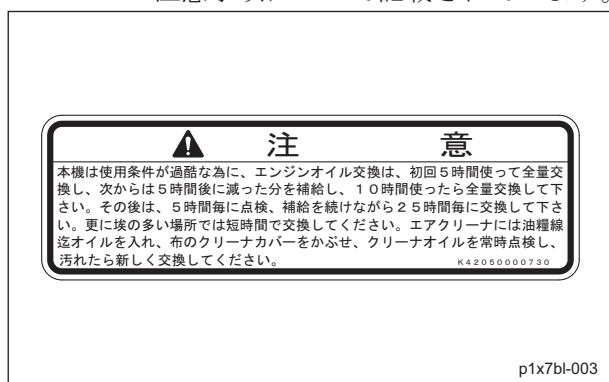
刈高締付注意マーク_001

エンジン注意プレート小

K4205000730

エンジン注意プレート小

エンジンの注意事項について記載されています。



エンジン注意プレート小_001

クラッチ注意事項

K4205000650

クラッチ注意事項

クラッチ操作の注意事項について記載されています。

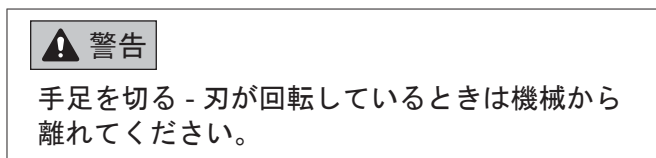
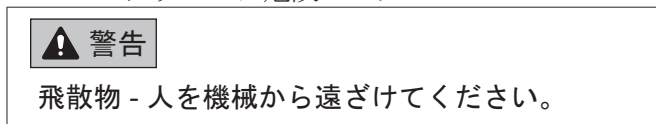


クラッチ注意事項_001

ロータリーモア危険マーク

K4205000350

ロータリーモア危険マーク



ロータリーモア危険マーク_001

カバー取付注意マーク

K4205000480

カバー取付注意マーク

カバーの注意事項について記載されています。



カバー取付注意マーク_001

吹出口危険マーク

K4205000700

吹出口危険マーク

手を切る-刃が回転中は手を近づけないください。



吹出口危険マーク_001

ベルト表示ラベル

GM65BW-0803A0

ベルト表示ラベル

各部で使用している V ベルトの仕様について記載されています。

V ベルト				GM65BW-0803A0
走行用	K2346034000	VベルトLB34AG-6A	1本	
ナイフ用	K2346061000	VベルトLB61AG-6A	1本	

ベルト表示ラベル_001

取り扱い説明

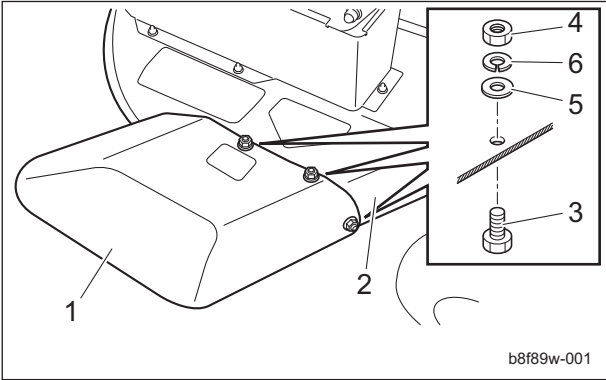
使用前の準備	Page 4-2	移動	Page 4-18
防護カバーの取り付け	Page 4-2	走行操作	Page 4-18
エアクリーナーオイルの補給	Page 4-2	刈り込み	Page 4-18
動作確認	Page 4-2	傾斜地作業について	Page 4-18
点検	Page 4-2	急傾斜地作業について	Page 4-18
ロータリーナイフ	Page 4-2	刈り込み操作	Page 4-19
カバー	Page 4-3	運搬	Page 4-19
エアクリーナー	Page 4-3	運搬方法	Page 4-19
エアークリーナーカバー	Page 4-4	保管	Page 4-19
タイヤ	Page 4-4	長期保管について	Page 4-19
ブレーキ	Page 4-4		
クラッチ	Page 4-4		
ベルト	Page 4-4		
ワイヤー	Page 4-5		
電気配線	Page 4-5		
エンジン周り	Page 4-5		
エンジンオイル	Page 4-5		
燃料	Page 4-6		
燃料ストレーナー	Page 4-7		
油漏れ	Page 4-7		
締め付けトルク	Page 4-8		
標準締め付けトルク	Page 4-8		
重要締め付けトルク	Page 4-10		
使用前の調整	Page 4-10		
刈高の調整	Page 4-10		
エンジン始動・停止方法	Page 4-11		
エンジン始動・停止	Page 4-11		
操作方法	Page 4-14		
機械を離れるときの注意	Page 4-14		
操作ラベル貼付位置	Page 4-14		
操作ラベルの説明	Page 4-14		
エンジンスイッチ	Page 4-16		
ブレーキレバー	Page 4-16		
走行主クラッチレバー	Page 4-16		
主変速レバー	Page 4-17		
刈刃主クラッチレバー	Page 4-17		
操向クラッチレバー	Page 4-18		

取り扱い説明

使用前の準備

防護カバーの取り付け

- 1. 防護カバーをロータリーカバーにボルト、ナットで取り付けてください。
- 2. ボルト、ナットを確実に締め付けてください。



防護カバーの取り付け_001

1	防護カバー
2	ロータリーカバー
3	ボルト
4	ナット
5	ワッシャー
6	S ワッシャー

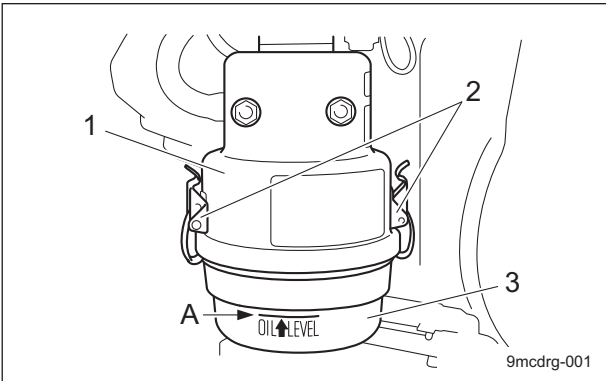
エアクリーナーオイルの補給

重要

オイルはエンジンオイルと同じものを使用してください。

エアクリーナーには、防塵のためオイルを使用しています。

- 1. キャッチクリップを外し、オイルパンを取り外してください。
- 2. オイルパンのオイルレベル線まで、オイルを入れてください。
- 3. オイルパンを取り付け、キャッチクリップで確実に固定してください。



エアクリーナーオイルの補給_001

1	エアクリーナー
2	キャッチクリップ
3	オイルパン
A	オイルレベル線

動作確認

- 1. ブレーキが完全に動作するか確認してください。
- 2. 走行主クラッチレバー、主変速レバー、刈刃主クラッチレバー、操向クラッチレバーが完全に動作するか確認してください。
- 3. 調整が必要な場合は、調整を行ってください。

点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、メンテナンススケジュールに従って点検をしてください。

ロータリーナイフ

ロータリーナイフの点検

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

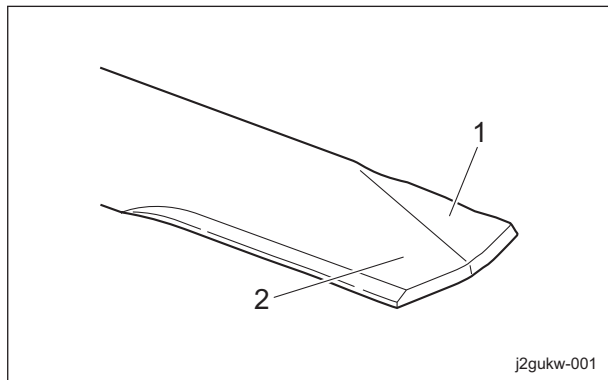
使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中での損傷などにより、バランスが崩れて振動が出たり、切れ味が悪くなることがあります。点検をし、必要に応じてロータリーナイフを研磨、およびバランス取り、または交換をしてください。

重要

乾燥した土や砂を含んだ場所での使用は、ロータリーナイフの磨耗が早いいため、頻繁に点検をしてください。

- 1. ロータリーナイフが曲がっていないか確認してください。
- 2. ロータリーナイフが欠けていないか確認してください。
- 3. ロータリーナイフの磨耗量を確認してください。
- 4. ロータリーナイフが片減りしていないか確認してください。
- 5. ロータリーナイフの取り付けボルトが緩んでいないか確認してください。

6. ロータリーナイフのセイル部と平坦部との間に割れ目やちぎれが無いか確認してください。



ロータリーナイフの点検_001

1	セイル部
2	平坦部

カバー

カバーの点検

**警告**

点検時に防護カバーを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。
防護カバーが取り外されていると、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

1. ロータリーカバーおよび防護カバーなどに磨耗や劣化が無いか確認してください。
2. ロータリーカバーおよび防護カバーなどに破損が無いか確認してください。
3. ロータリーカバーおよび防護カバーなどに変形による可動部への干渉が無いか確認してください。
4. 防護カバーなどが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

エアクリナー

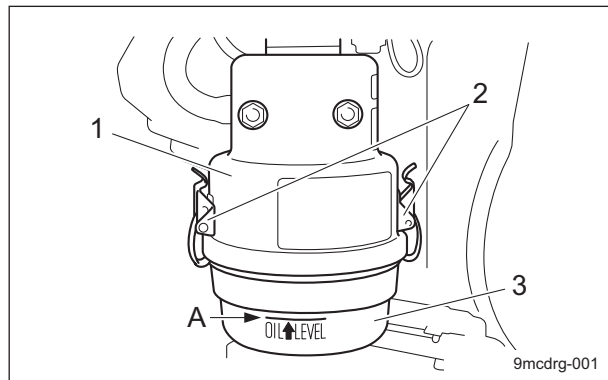
エアクリナーの点検

エアクリナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの磨耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。

エアクリナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エアクリナーには、防塵のためオイルを使用しています。

1. エアクリナーに損傷が無いか確認してください。
2. エアクリナーエレメントに汚れが無いか確認してください。

3. オイルがオイルレベル線まで入っているか確認してください。



エアクリナーの点検_001

1	エアクリナー
2	キャッチクリップ
3	オイルパン
A	オイルレベル線

エアクリナーの清掃

エアクリナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

1. キャッチクリップを外し、オイルパンを取り外してください。
2. エアクリナーエレメントを取り外してください。

重要

エアクリナーエレメントは、破損や汚れがある場合は交換してください。

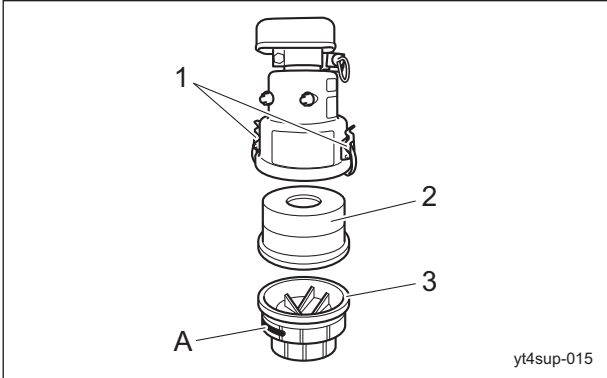
重要

オイルはエンジンオイルと同じものを使用してください。

3. エアクリナーエレメントは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、エンジンオイルに浸し、滴下しない程度に絞ってください。
4. オイルパンは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、オイルをオイルレベル線まで入れてください。
5. エアクリナーエレメントを取り付けてください。

取り扱い説明

6. オイルパンを取り付けてください。



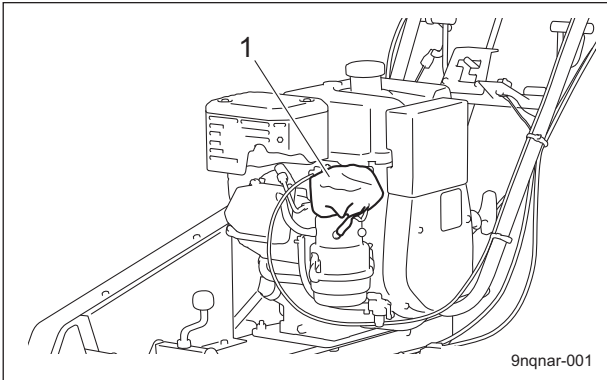
エアクリーナーの清掃_001

1	キャッチクリップ
2	エアクリーナーエレメント
3	オイルパン
A	オイルレベル線

エアークリーナーカバー

エアークリーナーカバーの点検

1. エアークリーナーにカバー（布袋）が確実にかぶっているか確認してください。
2. カバーの汚れがひどい場合は、新品と交換してください。



エアークリーナーカバーの点検_001

1	エアークリーナーカバー
---	-------------

タイヤ

タイヤの点検

1. タイヤの空気圧を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

	タイヤサイズ	空気圧
前輪	2.50 - 4	350 kPa (3.5 kgf/cm ²)
後輪	3.50 - 5	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)

ブレーキ

ブレーキの点検



注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

1. ブレーキレバーを握り、ブレーキが完全に動作するか確認してください。
2. ブレーキレバーを強く握ったとき、ブレーキレバーがロックされるか確認してください。
3. ロック解除レバーを握ったとき、ブレーキレバーのロックが解除されるか確認してください。
4. ブレーキレバーのロックを解除したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

クラッチ

クラッチの点検

1. クラッチレバーを操作し、クラッチが完全に動作するか確認してください。
2. クラッチレバーの作動状態が良好か確認してください。

ベルト

ベルトの点検



警告

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。



警告

点検時にカバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。
カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

1. ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

ワイヤー

ワイヤーの点検

1. ワイヤーに亀裂、損傷が無いことを確認してください。
2. 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

電気配線

電気配線の点検

重要

電気配線の短絡は火災、漏電、電気機器の故障の原因となります。

端子の接続不良、配線・端子の損傷、接続部の緩み、気象劣化、および化学的劣化が無い、電気配線の確認を行ってください。
必要があれば、機械を操作する前に修理を行ってください。

エンジン周り

エンジン周りの点検

1. 燃料系の部品は、取り付け部に緩みやひび割れ、漏れが無いか確認し、必要があれば交換してください。
2. マフラーやマフラーの周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。

エンジンオイル

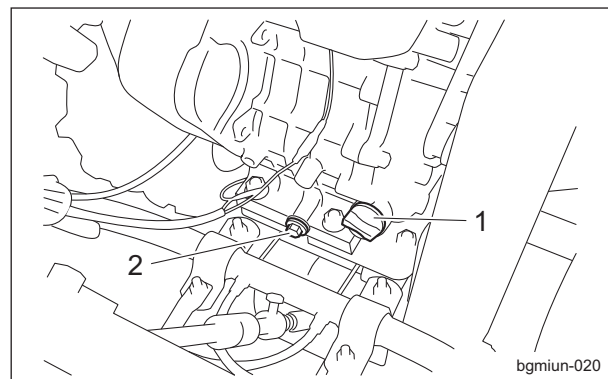
エンジンオイルの点検

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 - 20 分後に行ってください。

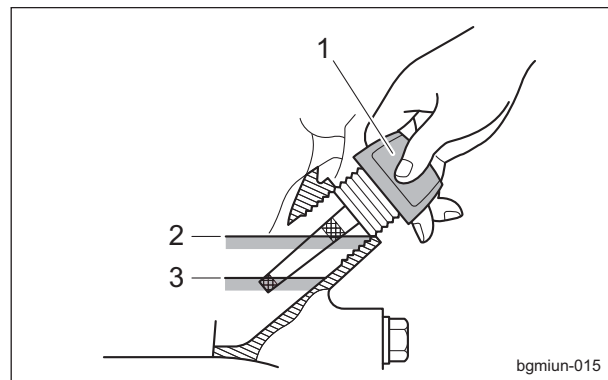
2. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検_001

1	オイルレベルゲージ (オイル注入口)
2	ドレンプラグ

3. エンジンオイル量が上限と下限の間にあれば適量です。



エンジンオイルの点検_002

1	オイルレベルゲージ
2	上限
3	下限

4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。

エンジンオイルの補給

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

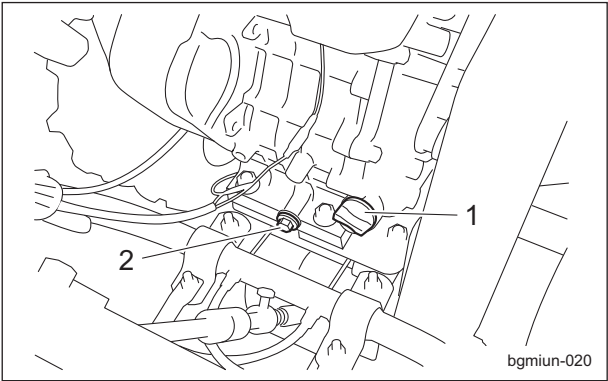
重要

エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

- 1. オイルレベルゲージを取り外してください。
- 2. オイル注入口から新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限になるまでエンジンオイルを入れてください。
- 3. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。
- 4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。



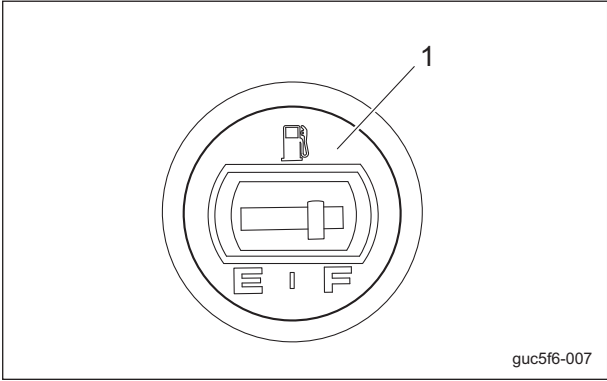
エンジンオイルの補給_001

1	オイルレベルゲージ（オイル注入口）
2	ドレンプラグ

燃料

燃料の点検

機械を水平な状態にし、燃料タンク上の燃料ゲージにて、量の確認をしてください。



燃料の点検_001

1	燃料ゲージ
---	-------

燃料の給油

⚠ 注意

燃料ゲージの FULL の位置以上に給油はしないでください。
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにタンクキャップより燃料があふれる可能性があります。

⚠ 注意

燃料給油時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

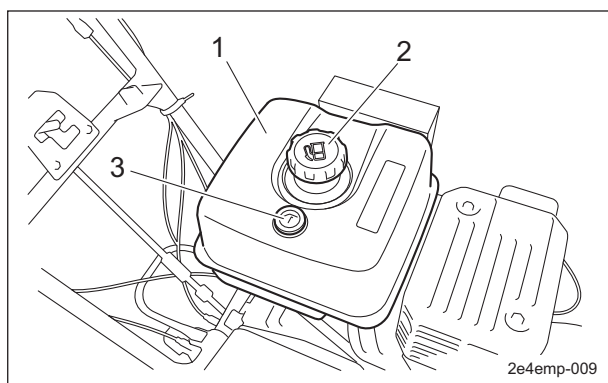
⚠ 注意

燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。

⚠ 注意

高温部に触れないように注意してください。

燃料タンク上の燃料ゲージが、EMPTY に近づいたら早めに燃料（ガソリン）の給油を行ってください。
燃料タンク容量は、約 6.0 dm³ (6.0 L) です。



燃料の給油_001

1	燃料タンク
2	タンクキャップ
3	燃料ゲージ

燃料ストレーナー

燃料ストレーナーの点検

燃料ストレーナーは、燃料タンク近くに取り付けてあり、キャブレーターへの流入燃料をきれい にします。

燃料の流れが悪くなったら、必要に応じて清掃 または、交換してください。

1. 燃料漏れが無い確認してください。
2. 傷、汚れが無い確認してください。

燃料ストレーナーの清掃

燃料ストレーナーは、埃やゴミがたまると燃料 の流れが悪くなります。

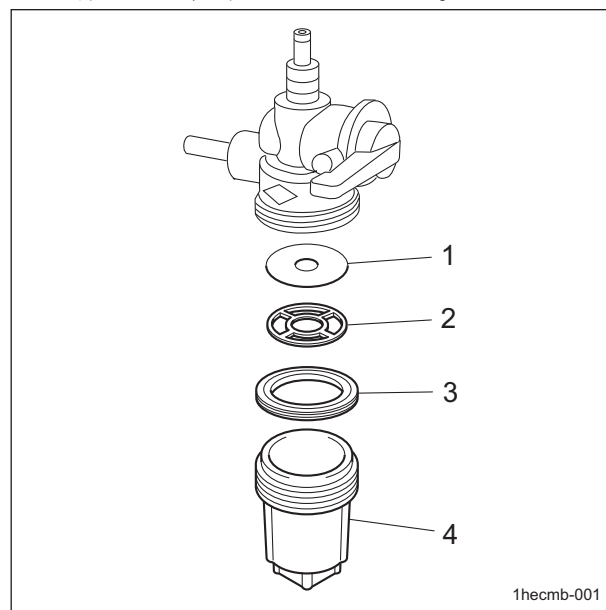
定期的に清掃を行ってください。

重要

燃料ストレーナーの清掃は、埃やゴミの無い清潔 な場所で行ってください。

1. 燃料フィルターの燃料コックを閉じてくださ い。
2. 燃料コックのストレーナーカップを取り外し てください。
3. ストレーナーカップ内部とフィルターを引火 性の低い灯油などの溶剤で洗浄してください。

4. 圧縮空気で乾燥させてください。



燃料ストレーナーの清掃_001

1	フィルター
2	パッキン A
3	パッキン B
4	ストレーナーカップ

重要

取り付けるときは、チリや埃が付着しないよう に注意してください。

燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料の流れ が悪くなります。

5. 元のように正しく組み付けてください。
6. 燃料タンクに燃料を満たし、燃料コックを開 いてください。
7. 燃料漏れが無い確認してください。

油漏れ

各部油漏れの点検

50 時間くらい使用すると、締め付け部の緩みな どが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性 があります。

必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏 れが無い確認してください。

取り扱い説明

締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

標準締め付けトルク

ボルト、ねじ類

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。
使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。
締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。
締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。
めねじの強度が弱い場合は適用できません。
さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。
所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。
ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。
できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

取り扱い説明

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
	   tib3yb-001		
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
	   tib3yb-002			   tib3yb-003		
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：

「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

重要締め付けトルク

機種別締め付けトルク

GM65BW

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。
ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位	コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤
			N-m	kgf-cm	lb-in	
刈刃部	K0160000142	18 特殊ナット P1.5	155 - 165	1,580.54 - 1,682.51	1,371.91 - 1,460.42	—
	K0160000152	18 特殊袋ナット P1.5	155 - 165	1,580.54 - 1,682.51	1,371.91 - 1,460.42	—
	K0071000921	12 調質ボルト 21	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1,186.03	—
ミッション部	K1420000072-Y	M8 特殊廃油栓	13	132.56	115.06	—

使用前の調整

刈高の調整

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

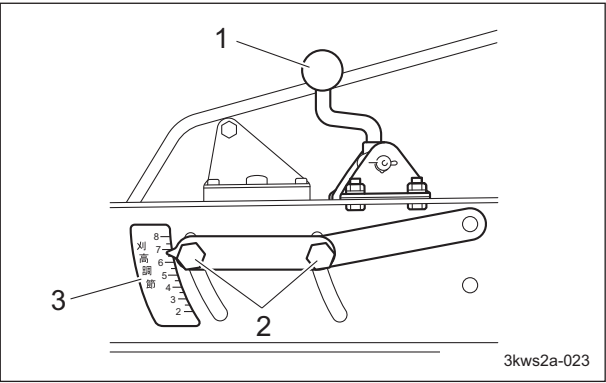
⚠ 注意

刈高調整はエンジンを停止して、すべての駆動が停止していることを確認してから行ってください。

重要

セット刈高のため実際の刈高とは異なります。

- 1. ボルトを緩めてください。
- 2. 刈高ハンドルを回し、任意の刈高に設定してください。
- 3. ボルトを確実に締め付けてください。



刈高の調整_001

1	刈高ハンドル
2	ボルト
3	刈高標示マーク

エンジン始動・停止方法

エンジン始動・停止

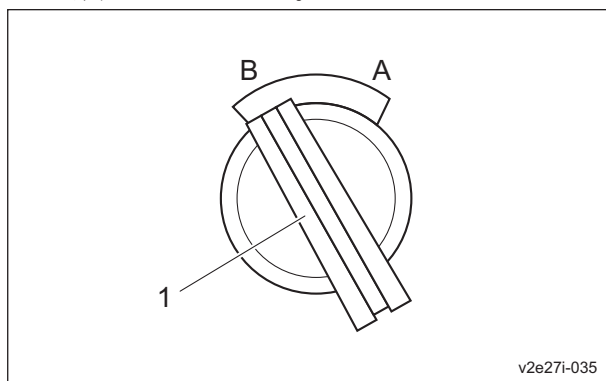
エンジン始動手順



注意

エンジンを始動する前に機械や周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

1. エンジンスイッチが「OFF」になっていることを確認してください。

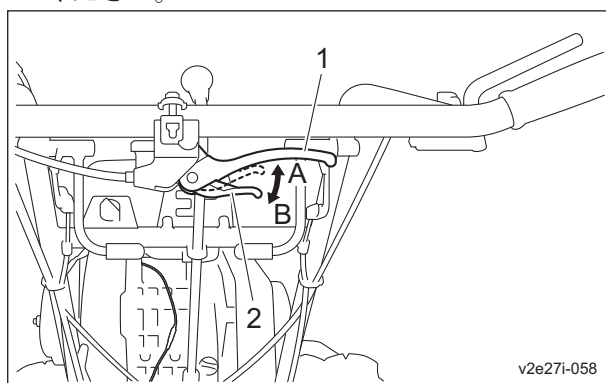


v2e27i-035

エンジン始動手順_001

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

2. ブレーキがロックされていることを確認してください。

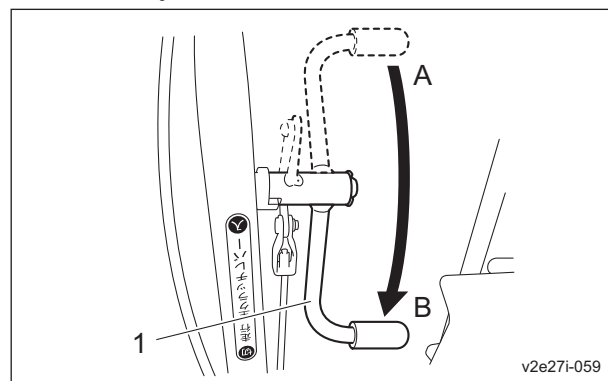


v2e27i-058

エンジン始動手順_002

1	ブレーキレバー
2	ロック解除レバー
A	ロック解除
B	ロック

3. 走行主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。

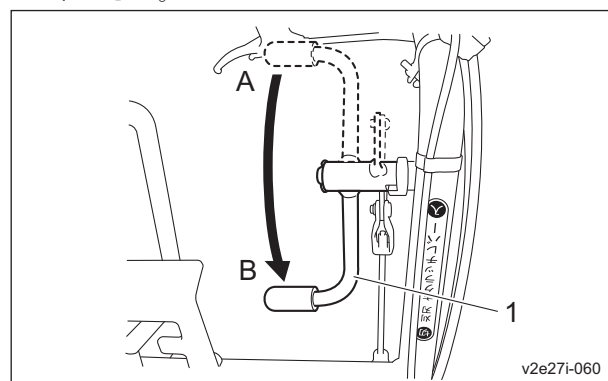


v2e27i-059

エンジン始動手順_003

1	走行主クラッチレバー
A	「入」
B	「切」

4. 刈刃主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。

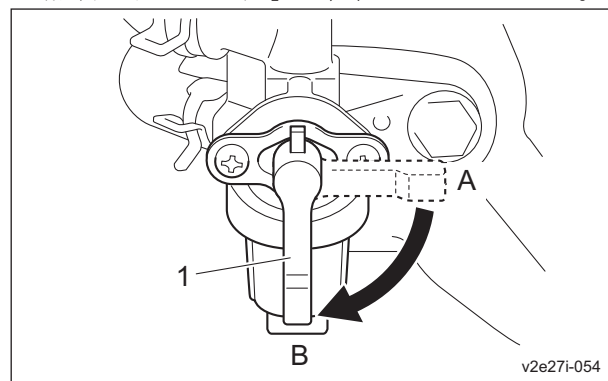


v2e27i-060

エンジン始動手順_004

1	刈刃主クラッチレバー
A	「入」
B	「切」

5. 燃料コックを「開」の位置にしてください。



v2e27i-054

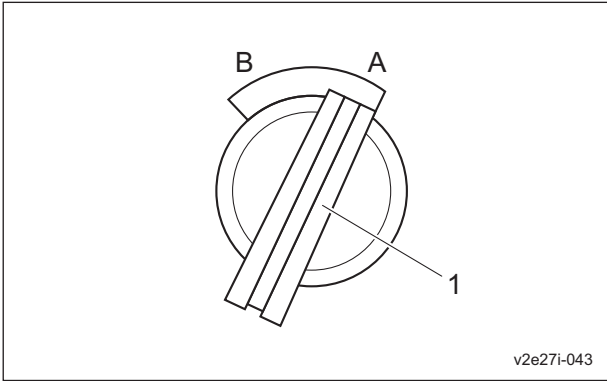
エンジン始動手順_005

1	燃料コック
A	「閉」
B	「開」

GM65BW

取り扱い説明

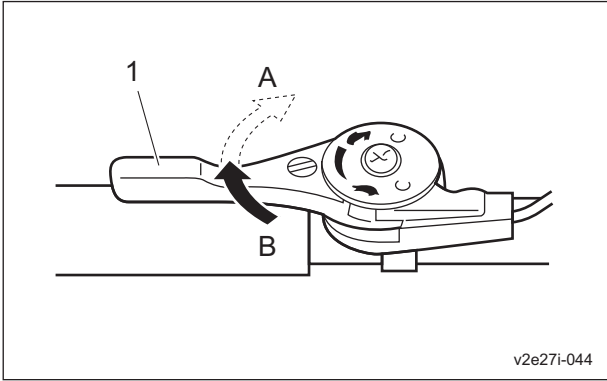
6. エンジンスイッチを「ON」の位置にしてください。



エンジン始動手順_006

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

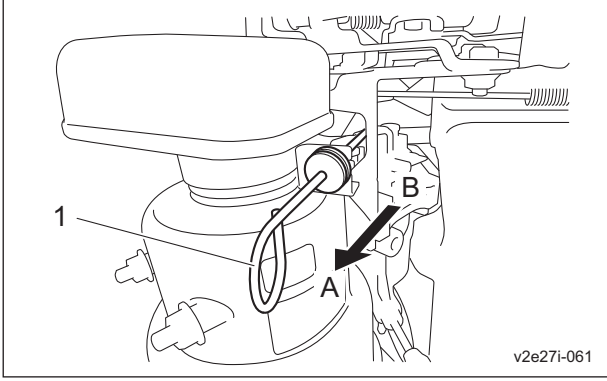
7. スロットルレバーを「低速」側から半分程度「高速」側へ動かしてください。



エンジン始動手順_007

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

8. チョークレバーをいっぱいまで引いてください。



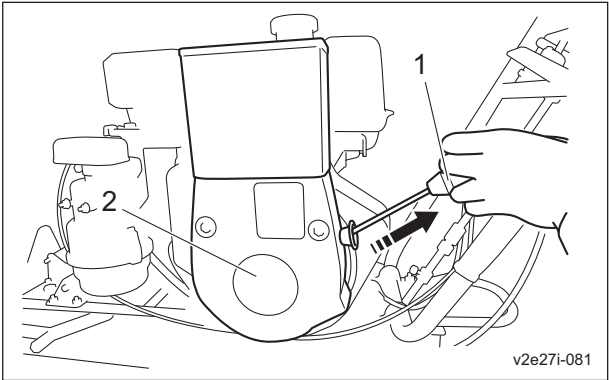
エンジン始動手順_008

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

重要

エンジン始動後はスターターグリップをゆっくりと元の位置に戻してください。
スターターグリップを引いたまま手を放すと、機器の損傷につながります。

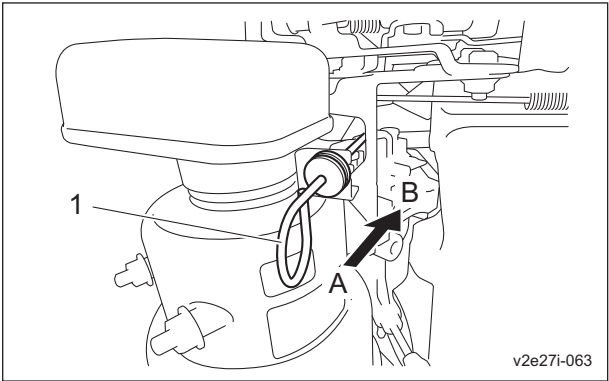
9. スターターグリップを勢いよく引き、エンジンを始動してください。



エンジン始動手順_009

1	スターターグリップ
2	リコイルスターター

10. チョークレバーをいっぱいまで押し込んでください。



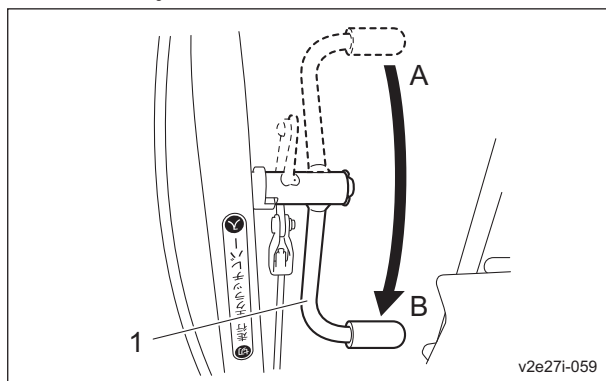
エンジン始動手順_010

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

取り扱い説明

エンジン停止手順

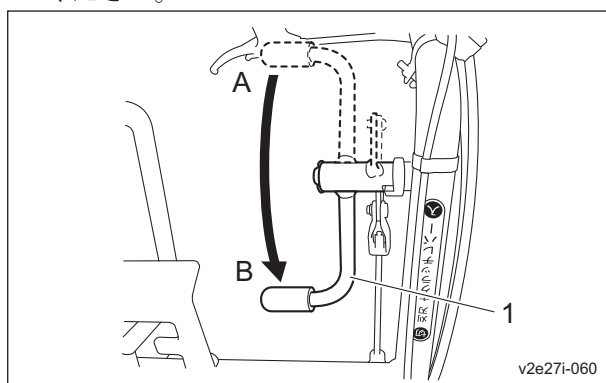
1. 走行主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン停止手順_001

1	走行主クラッチレバー
A	「入」
B	「切」

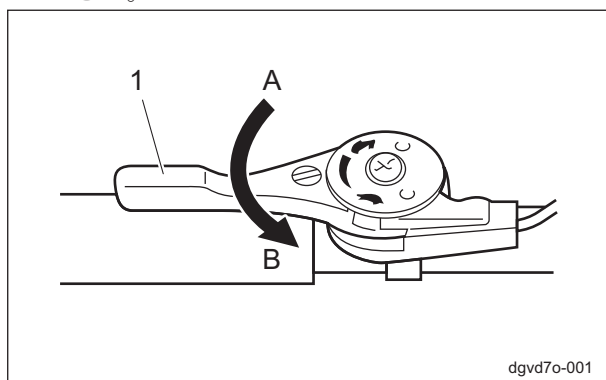
2. 刈刃主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン停止手順_002

1	刈刃主クラッチレバー
A	「入」
B	「切」

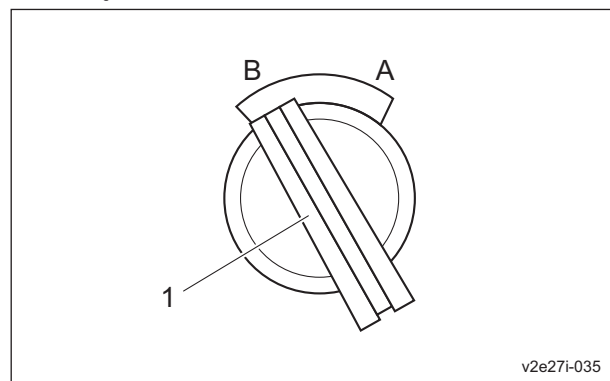
3. スロットルレバーを「低速」の位置にしてください。



エンジン停止手順_003

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

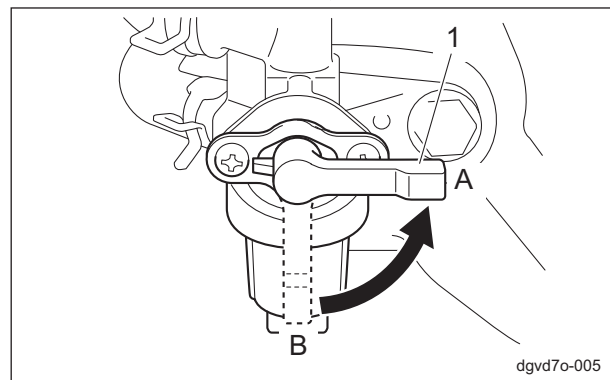
4. エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてください。



エンジン停止手順_004

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

5. 燃料コックを「閉」の位置にしてください。



エンジン停止手順_005

1	燃料コック
A	「開」
B	「閉」

取り扱い説明

操作方法

機械を離れるときの注意



注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。



注意

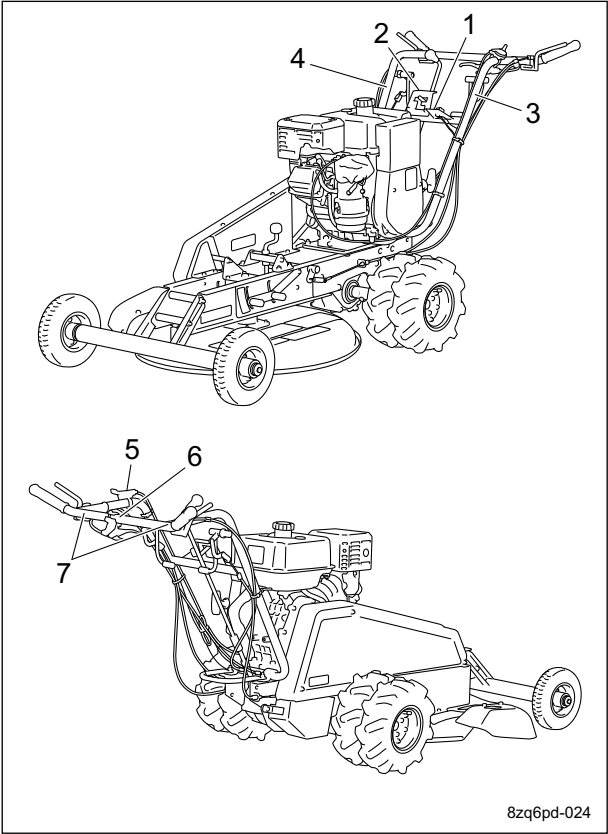
エンジンが確実に停止していることを確認してください。



注意

ブレーキレバーがロックされていることを確認してください。

操作ラベル貼付位置



8zq6pd-024

操作ラベル貼付位置_001

1	エンジンスイッチマーク
2	主変速レバーマーク
3	刈刃主クラッチレバーマーク
4	走行主クラッチレバーマーク
5	エンジン回転マーク
6	駐車ブレーキレバーマーク
7	操向クラッチレバーマーク

操作ラベルの説明

エンジンスイッチマーク

K4203000680
エンジンスイッチマーク
エンジンスイッチの位置を示しています。

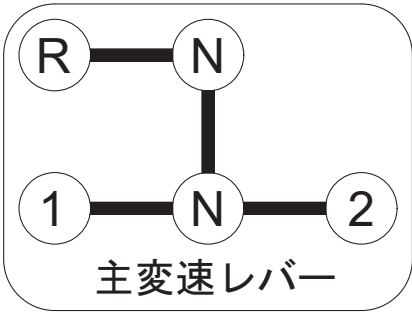


rcyo1p-012

エンジンスイッチマーク_001

主変速レバーマーク

GM65AW-1007Z0
主変速レバーマーク
主変速レバーの位置を示しています。



an8lyj-004

主変速レバーマーク_001

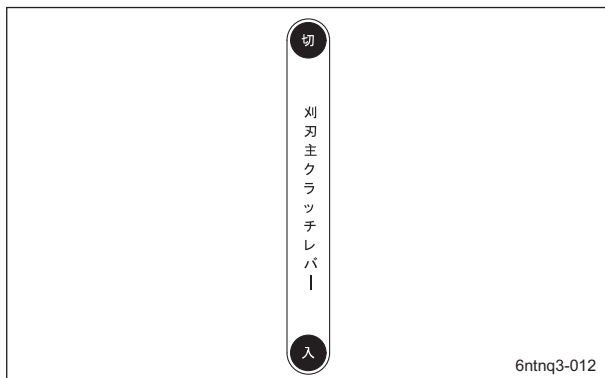
取り扱い説明

刈刃主クラッチレバーマーク

K4203000180

刈刃主クラッチレバーマーク

刈刃主クラッチレバーの入・切を示しています。



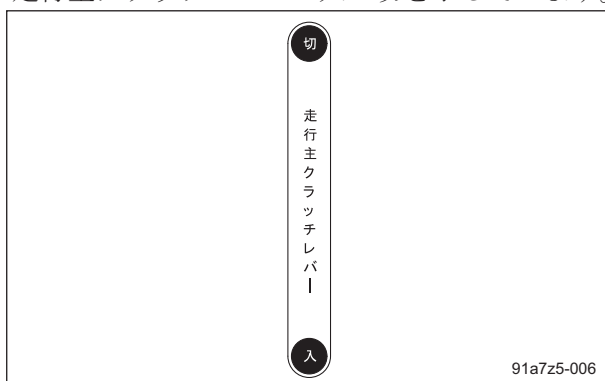
刈刃主クラッチレバーマーク_001

走行主クラッチレバーマーク

K4203000280

走行主クラッチレバーマーク

走行主クラッチレバーの入・切を示しています。



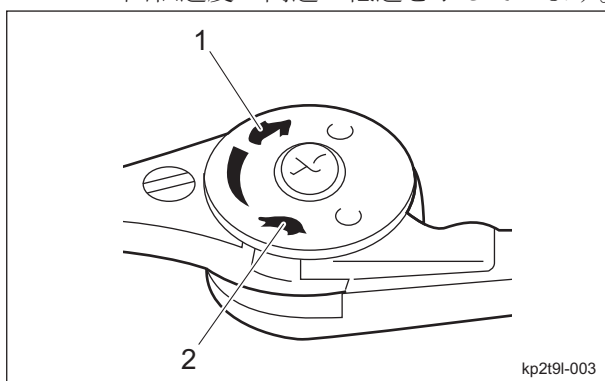
走行主クラッチレバーマーク_001

エンジン回転マーク

—

エンジン回転マーク

エンジン回転速度の高速・低速を示しています。



エンジン回転マーク_001

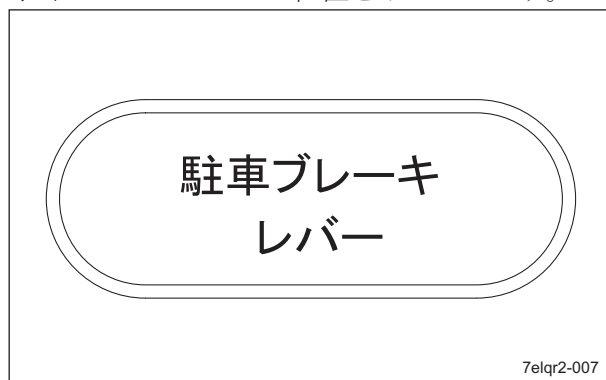
1	高速
2	低速

駐車ブレーキレバーマーク

K4203000190

駐車ブレーキレバーマーク

駐車ブレーキレバーの位置を示しています。



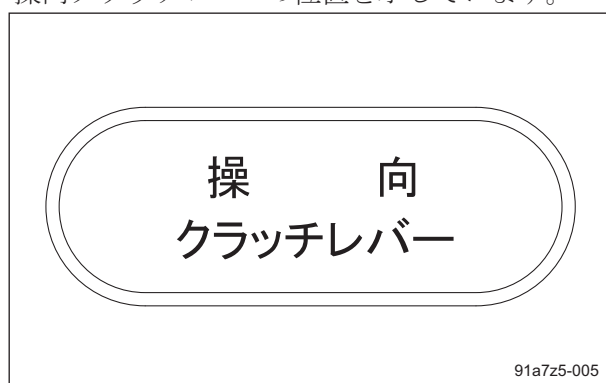
駐車ブレーキレバーマーク_001

操向クラッチレバーマーク

K4203000150

操向クラッチレバーマーク

操向クラッチレバーの位置を示しています。

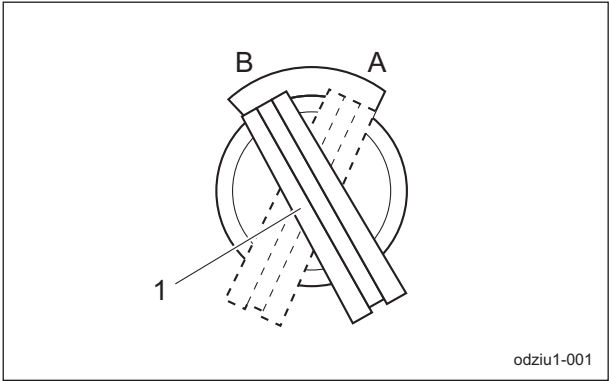


操向クラッチレバーマーク_001

取り扱い説明

エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、ハンドルにあります。
エンジンを始動するときはスイッチを「ON」の位置にし、エンジンを停止するときはスイッチを「OFF」の位置にします。



エンジンスイッチ_001

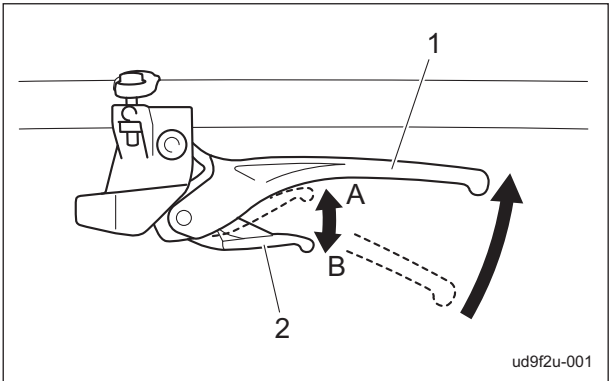
1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

ブレーキレバー

重要

走行中の駐車ブレーキ操作は、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。
駐車ブレーキレバーを操作するときは、走行主クラッチレバーを切ってください。

ブレーキレバーはハンドルにあります。
ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、ブレーキレバーを強く握るとブレーキレバーがロックされます。
ロック解除レバーを握ると、ブレーキレバーのロックは解除されます。
参考：
駐車ブレーキとして使用することができます。



ブレーキレバー_001

1	ブレーキレバー
2	ロック解除レバー
A	ロック解除
B	ロック

走行主クラッチレバー

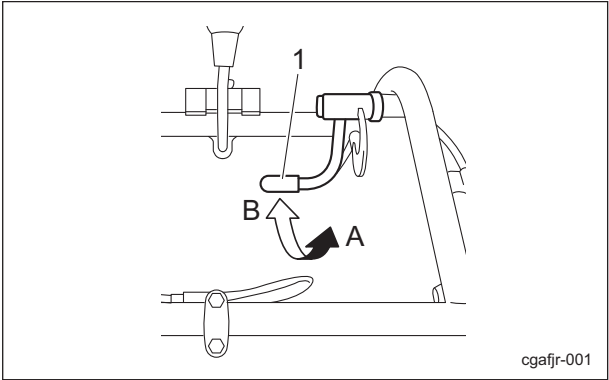
警告

後進時は、後方に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

重要

走行主クラッチレバーは、主変速レバーを作業や移動に適した位置に操作してから操作してください。

走行主クラッチレバーはハンドルにあります。
走行主クラッチレバーを手前に引くとテンションが入り走行します。
走行主クラッチレバーを押すとテンションが切れます。



走行主クラッチレバー_001

1	走行主クラッチレバー
A	入
B	切

取り扱い説明

主変速レバー

警告

後進時は、後方に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

注意

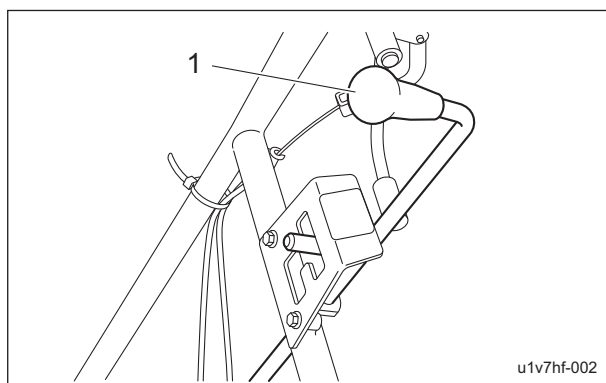
主変速レバーは、平坦な場所で、走行主クラッチレバーを切ってから操作してください。

重要

ミッションが破損する原因になりますので、走行中は主変速レバーを切り替えないでください。

主変速レバーはハンドルにあります。
作業や移動に適した任意の位置にレバーを倒してください。

前進	1（低速）	2.5 km/h
	2（高速）	4.0 km/h
後進	R	1.9 km/h
中立	N	-



主変速レバー_001

1	主変速レバー
---	--------

刈り主クラッチレバー

警告

ロータリーナイフ回転中はロータリーカバーの中に手足を入れないでください。

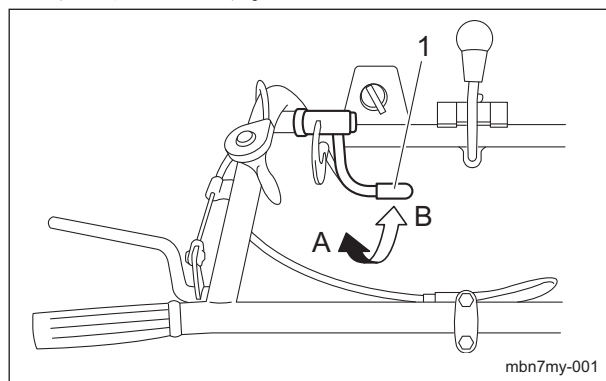
注意

刈り主クラッチレバーは、刈り込む直前に入れ、それ以外のときは、必ず切っておいてください。

重要

刈り主クラッチレバーはゆっくりと入れてください。
急激に入れると、エンストやベルトの損傷につながります。

刈り主クラッチレバーはハンドルにあります。
刈り主クラッチレバーを手前に引くとロータリーナイフが回転します。
刈り主クラッチレバーを押すとロータリーナイフの回転が停止します。



刈り主クラッチレバー_001

1	刈り主クラッチレバー
A	入
B	切

取り扱い説明

操向クラッチレバー

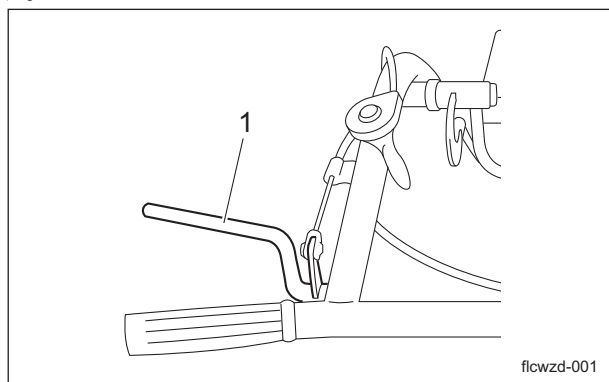
⚠ 警告

旋回時は、周囲に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

⚠ 警告

傾斜地では操向クラッチレバーを左右同時に握らないでください。
制御不能になります。

操向クラッチレバーはハンドルにあります。
旋回する側の操向クラッチレバーを握り、前輪を浮かせて旋回します。
右側の操向クラッチレバーを握ると右に旋回します。
左側の操向クラッチレバーを握ると左に旋回します。



操向クラッチレバー_001

1 操向クラッチレバー

移動

走行操作

⚠ 警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

⚠ 注意

どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

1. エンジンを始動します。
2. 主変速レバーを任意の位置にします。
3. ブレーキを解除します。
4. 走行主クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にします。

5. 機械は走行を始めます。

6. 走行主クラッチレバーをゆっくりと「切」の位置にすると機械は停止します。

刈り込み

傾斜地作業について

傾斜地作業を行うときは、以下のことに注意をして作業を行ってください。

- ・ 傾斜地では、特に作業前に穴・岩石・木の根・（その他不法投棄物）などが無いかを確認してそれらを取り除いてから、十分気をつけて作業をしてください。
- ・ 急傾斜地での転倒を防ぐために、斜面の一番下方から等高線に沿って作業し、順番に上方へ移動してください。
ただし、下方から作業できない場合は、傾斜角度の緩いところから等高線に沿って作業をしてください。
- ・ 旋回は、傾斜上方の操向クラッチレバーを握り、旋回してください。
- ・ 安全のために、機械が等高線に沿って停止するようにしてください。
- ・ 燃料は、早めに給油してください。

急傾斜地作業について

⚠ 警告

20 度以上の急傾斜地で使用の際は、以下のことを必ず守ってください。

- ・ 転倒やスリップの危険がある場所では、機械を運転しないでください。
- ・ 旋回はできるだけ傾斜角度の緩い所で行ってください。
- ・ エンジンを焼き付きや磨耗から守るため、同方向での直進距離を 20 m 以内として旋回してください。
- ・ エンジンオイルおよびエアクリーナのオイルは、3 時間ごとに点検、補給を行い、エンジンを焼き付きや磨耗から守ってください。
- ・ 25 度（使用最大傾斜地角度）以上の急傾斜地での作業は、横転の危険が非常に高いので使用しないでください。
- ・ 補助作業者をを使ってロープなどで作業しますと、機械が許容以上の急傾斜地まで入り、横転の危険が増し、安全作業ができなくなるので、メーカーとして禁止します。

取り扱い説明

刈り込み操作

警告

後進するときは、刈刃主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
転倒したり、障害物に挟まれたとき重大事故につながります。

警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行ってください。
凸凹面の刈り込みは、刈り込み速さを遅くして行ってください

重要

リコイルスターターのシュノーケルに刈草などが付着した場合は取り除いてください。
エンジンのオーバーヒートの原因になります。

1. エンジンを始動します。
2. 主変速レバーを任意の位置にします。
3. ブレーキを解除します。
4. 刈刃主クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にし、ナイフを回転させます。
5. 走行主クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にし、刈り込みを始めます。

運搬

運搬方法

注意

機械を積み降ろしするときは、滑らない靴を着用し、ゆっくりと走行してください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ロープをエンジンに掛けないでください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ワイヤーを曲げないように注意してください。

この機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。

積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。

トラックやトレーラーに積載して移動するときは、この機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。

あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

保管

長期保管について

1. 清掃
 - ・ 車両本体およびエンジンなどの泥や草屑、油污れなどをきれいに落とししてください。
2. オイル交換
 - ・ エンジンオイル、エレメントの点検と交換をしてください。
3. 注油
 - ・ 各注油箇所にはグリース注入、塗布と注油をしてください。
4. 燃料
 - ・ 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
5. 格納場所
 - ・ 雨のかからない乾燥した場所で、カバーなどをかけてください。

メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
調整値	Page 5-4
ジャッキアップ	Page 5-5
ジャッキアップについて	Page 5-5
ジャッキアップポイント	Page 5-5
注油	Page 5-6
注油について	Page 5-6
注油位置	Page 5-6
メンテナンスの方法	Page 5-8
ロータリーナイフの交換	Page 5-8
ロータリーナイフの研磨	Page 5-10
ロータリーナイフのバランス取り	Page 5-11
刈刃ギヤケースのグリース交換	Page 5-12
タイヤの脱着	Page 5-12
ベルトの張り調整	Page 5-13
ブレーキの調整	Page 5-15
操向クラッチの調整	Page 5-15
エアクリーナーの交換	Page 5-16
エンジンオイルの交換	Page 5-16
ミッションオイルの交換	Page 5-17
シリンダーヘッドの清掃	Page 5-18

メンテナンス

メンテナンス上の注意

警告

本書に記載する「メンテナンス」の章は、専門知識のある整備士が行うべきメンテナンスの項目について説明しています。
オーナーは、専門知識のある整備士がこの機械のメンテナンスを実施するように指導してください。

注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリーは BARONESS 純正部品をお求めください。
純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、メンテナンススケジュールに従ってメンテナンスをしてください。

メンテナンス時の機械姿勢

重要

機械のメンテナンスを行うときなど、ハンドル側を下にして倒した姿勢で長時間放置すると、エンジンの燃焼室にエンジンオイルが入り、エンジン不調の原因となりますので注意してください。
また、ハンドルを立てた位置に戻してからオイルが戻るのに十分な時間を確保するため、10 分経過してからエンジンを始動してください。

メンテナンススケジュール

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。

○・・・点検、調整、補給、清掃

●・・・交換（初回）

△・・・交換

メンテナンス項目		作業前	作業後	5 時間ごと	10 時間ごと	25 時間ごと	50 時間ごと	100 時間ごと	200 時間ごと	300 時間ごと	1 年ごと	必要に応じて	備考
エンジン	*2	各種ボルトナットの締め付け	○										
	*2	燃料レベルの点検	○										
	*2	液漏れ（油、燃料）の点検	○										
	*2	エアクリーナーの点検		○								△	
	*2	エンジンオイルレベルの点検	○										
		リコイルスターター防塵網の清掃		○									
	*2.*3	エンジンオイルの交換			●	△							初回 5 時間、2 回目以降 25 時間ごと
	*2	点火プラグの点検						○				△	
	*2	燃料ストレーナーの清掃						○					
		燃料ホースとクランプバンドの点検									○	△	
	*1	燃料タンク・燃料ろ過網の清掃								○			
	*1	バルブクリアランスの点検・調整								○			
	*1	燃焼室のカーボン除去								○			
	*2	エンジンおよびマフラー・排気管周辺の清掃		○									
駆動・刈り取り部		ボルト、ナットの締め付けの点検	○										
		電気配線の状態（損傷、汚損、接続部の緩み）の点検									○		
		ロータリーナイフの状態の点検	○										
		刈高の確認	○										
		走行クラッチレバーの作動の点検	○										
		刈刃クラッチレバーの作動の点検	○										
		操向クラッチの作動の点検	○										
		主変速レバーの作動の点検	○										
		刈刃ギヤケースのグリースの交換								△	△		300h または 1 年のいずれか早い周期
		可動部の注油					○						
		タイヤの空気圧と状態の点検	○										

メンテナンス

メンテナンス項目			作業前	作業後	5 時間ごと	10 時間ごと	25 時間ごと	50 時間ごと	100 時間ごと	200 時間ごと	300 時間ごと	1 年ごと	必要に応じて	備考
駆動・刈り取り部		V ベルトの張り調整				○		○						初回 10 時間、2 回目以降 50 時間ごと
		V ベルトの交換											△	
		ブレーキの作動の点検	○											
		駐車ブレーキの作動の点検	○											
		ブレーキワイヤーの点検							○				△	
		スロットルワイヤーの点検											○	
		操向クラッチワイヤーの点検	○											
		走行クラッチワイヤーの点検	○											
		刈刃クラッチワイヤーの点検	○											
		カバーの状態の点検	○											
		油漏れの点検	○											
		各部の損傷の点検	○											
		ミッションオイル量の点検										○		
		ミッションオイルの交換						●		△		△		初回 50 時間、2 回目以降 200 時間または 1 年のいずれか早い周期
		駆動・刈り取り部の清掃		○										

- ・ *1：点検整備は、お近くのバロネス販売店に相談の上、その指示に従ってください。
- ・ *2：エンジンの取扱説明書を参照ください。
- ・ *3 のエンジンオイルの交換スケジュールは、過酷な条件下で使用されるため、エンジンの取扱説明書と異なる場合があります。
- ・ 消耗品については、保証値ではありません。

調整値

走行用ベルト	5.0 mm (0.20 in)	ベルトのプーリー間の中央を 25 N (2.5 kgf) で押す
	41.0 mm (1.61 in)	U フックバネのコイル部分の長さ
刈刃用ベルト	20.0 mm (0.79 in)	ベルトのプーリー間の中央を 25 N (2.5 kgf) で押す
	47.0 mm (1.85 in)	U フックバネのコイル部分の長さ

ジャッキアップ

ジャッキアップについて

⚠ 警告

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず
輪止めなどをして、機械が動かないようにしてく
ださい。

機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実
に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作
業の妨げになる障害物を取り除いてください。
必要に応じ、適切なチェーンブロックやホイス
ト、およびジャッキを使用してください。

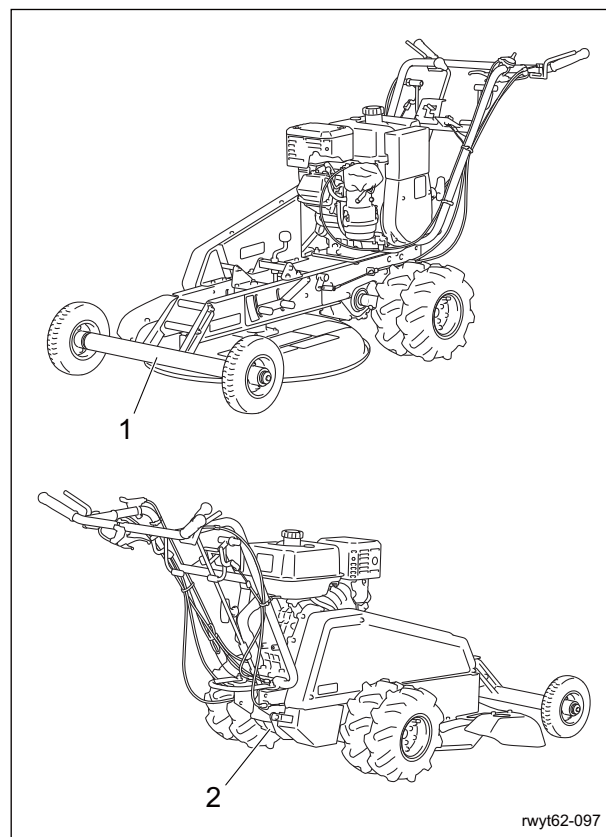
持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切
なブロックを使用し、確実に支えてください。
ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確
実に支えられていない場合は、機械が動いたり、
落ちたりするおそれがあります。
人身事故の原因となります。

重要

指示された位置以外では、ジャッキアップしな
い
てください。
フレームや部品が破損します。

この機械をジャッキアップする場合は、ジャッキ
アップポイントに記載してある位置で行ってくだ
さい。

ジャッキアップポイント



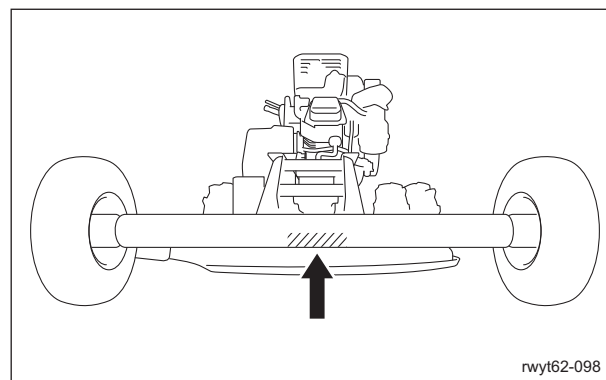
ジャッキアップポイント_001

ジャッキアップポイント	
1	前輪取り付け部
2	ギヤケース Assy 下部

1. 前輪取り付け部

⚠ 注意

前輪取り付け部の中央部にジャッキを確実にか
けてください。



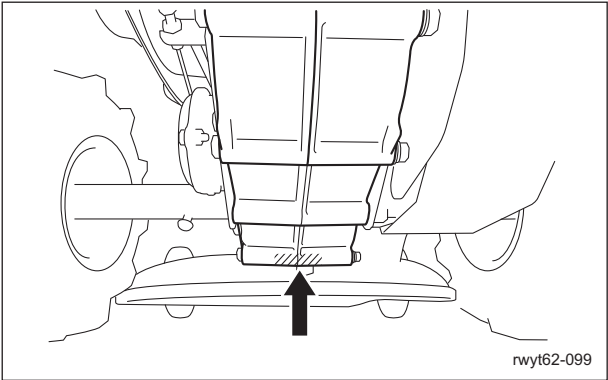
ジャッキアップポイント_002

メンテナンス

2. ギヤケース Assy 下部

▲ 注意

ギヤケース Assy 下部の中央部にジャッキを確実にかけてください。



ジャッキアップポイント_003

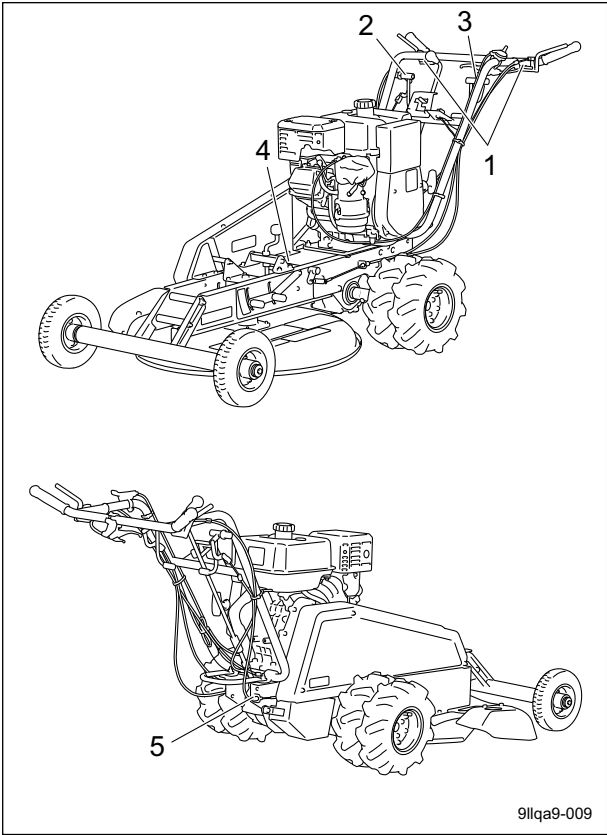
注油

注油について

可動部が固着したり、破損したりする可能性がありますので、潤滑剤を塗布する必要があります。潤滑剤を使用する場所は、「注油位置」に記載されています。潤滑剤を塗布してください。

注油位置

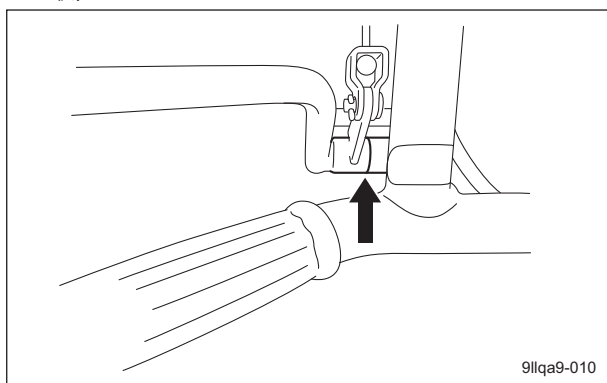
次の場所に 50 時間ごとに潤滑剤を塗布してください。



注油位置_001

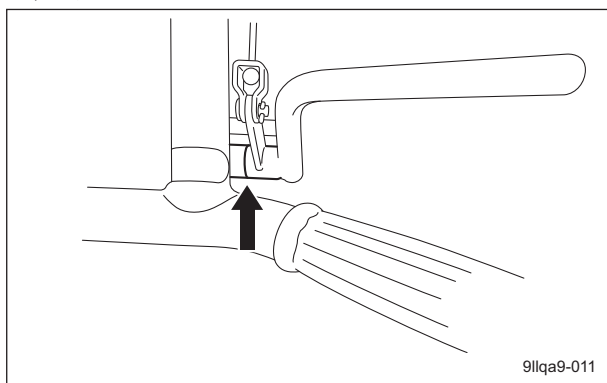
	部位	注油箇所数
1	操向クラッチレバー軸部	2
2	走行クラッチレバー軸部	1
3	刈刃クラッチレバー軸部	1
4	刈刃テンション軸部	2
5	走行テンション軸部	2

1. 操向クラッチレバー軸部
左右1か所ずつあります。
左側



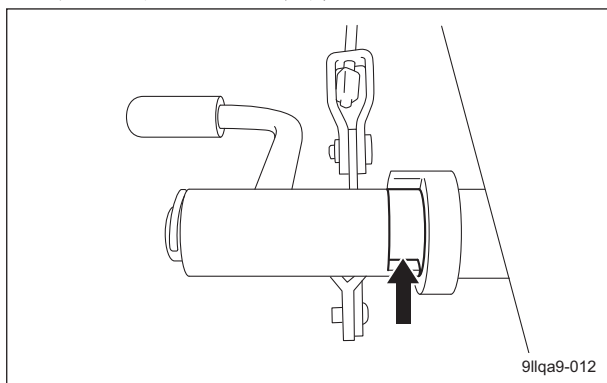
注油位置_002

右側



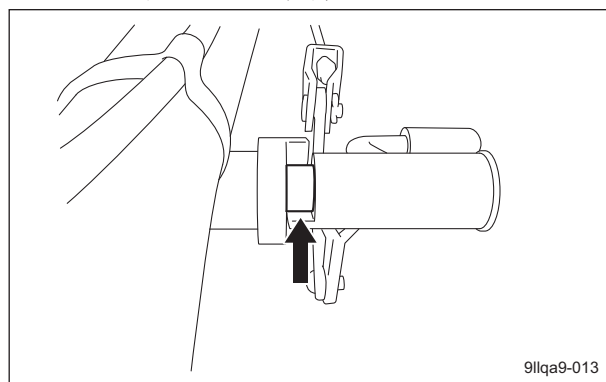
注油位置_003

2. 走行クラッチレバー軸部



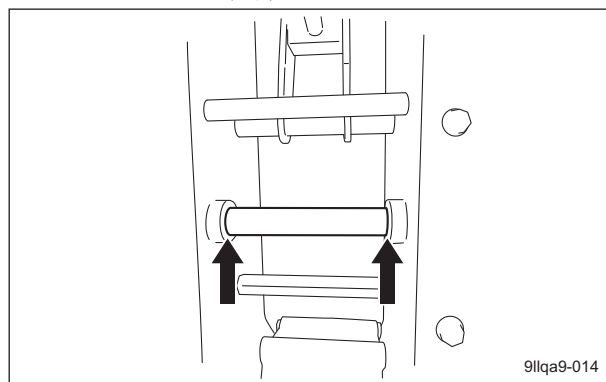
注油位置_004

3. 刈刃クラッチレバー軸部



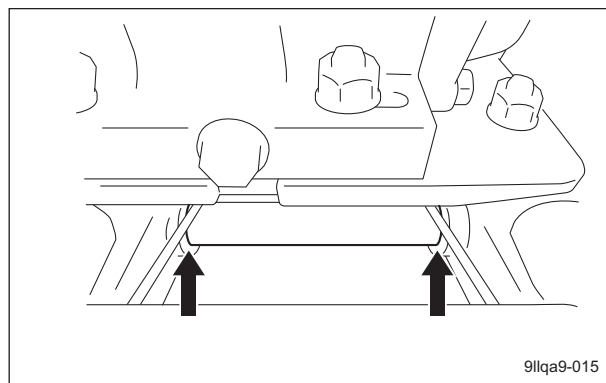
注油位置_005

4. 刈刃テンション軸部



注油位置_006

5. 走行テンション軸部



注油位置_007

メンテナンス

メンテナンスの方法

ロータリーナイフの交換

注意

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

注意

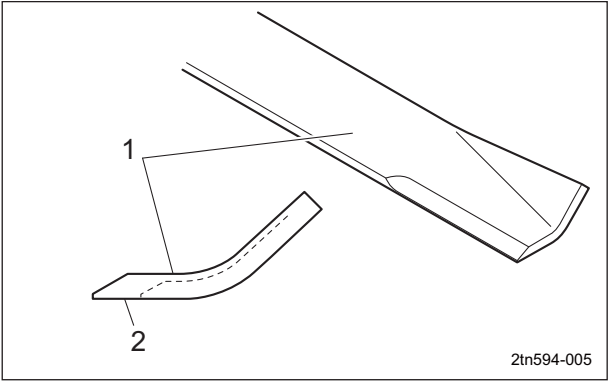
ロータリーナイフは、磨耗が進んだり、破損したりした場合は、セイル部と平坦部との間に割れ目やちぎれが発生します。
ロータリーナイフが回転中にちぎれて飛び出す場合がありますので、十分に気をつけてください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

重要

ロータリーナイフには向きがあります。
取り付けの場合は、向きを間違えないように注意してください。



ロータリーナイフの交換_001

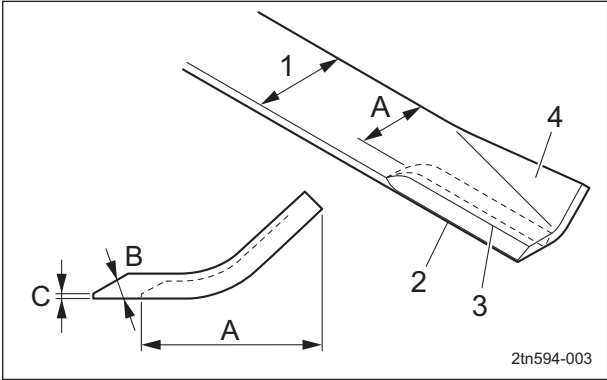
1	ロータリーナイフ上側
2	ロータリーナイフ下側

重要

ロータリーナイフは、取り付ける前にバランスがとれていることを確認してください。

ロータリーナイフは、刃先が欠けたり、薄くなった場合は、新しいロータリーナイフに交換してください。
ロータリーナイフの交換の基準は、以下のとおりです。

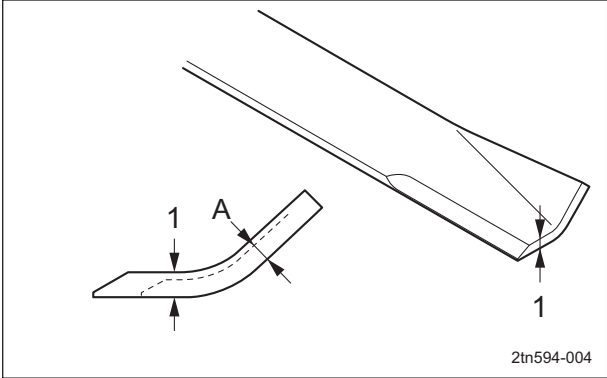
1. ロータリーナイフの最も幅の狭い場所が、新品の全幅の 2/3 未満の場合。



ロータリーナイフの交換_002

1	全幅
2	刃先
3	刃元
4	セイル部
A	2/3 未満
B	30 - 40°
C	0.5 - 1.0 mm (0.02 - 0.04 in)

2. ロータリーナイフの最も薄い場所の板厚が、新品の板厚の 1/3 未満の場合。



ロータリーナイフの交換_003

1	板厚
A	1/3 未満

ロータリーナイフの取り外し

⚠ 注意

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには
十分気をつけてください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがあります
ので、手袋を着用してください。

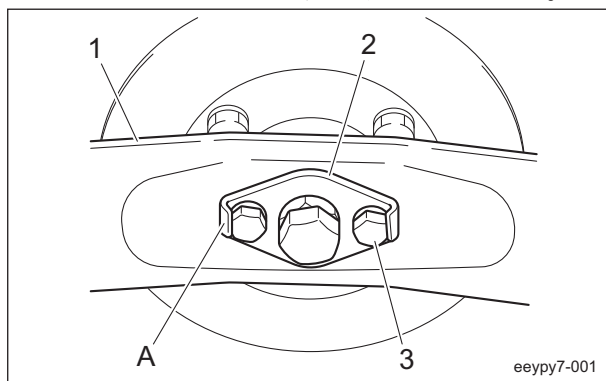
⚠ 注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下する
おそれがあります。
確実に機械をサポートしてください。

⚠ 注意

ボルトを緩めるとロータリーナイフが落下する
おそれがありますので、十分注意して作業してく
ださい。

1. ロック座金の折り曲げを開いてください。
2. ロータリーナイフを取り付けている 2 本のボ
ルトを取り外してください。
3. ロック座金を取り外してください。
4. ロータリーナイフを取り外してください。



ロータリーナイフの取り外し_001

1	ロータリーナイフ
2	ロック座金
3	ボルト
A	折り曲げ

ロータリーナイフの取り付け

重要

ロック座金を確実に装着してください。
ボルトの緩みの原因となります。

重要

ロータリーナイフには向きがあります。
取り付ける場合は、向きを間違えないように注意
してください。

重要

ロータリーナイフは、取り付ける前にバランスが
とれていることを確認してください。

重要

ナイフ取り付けボルトの締め付けトルクは、104
- 134 N-m (1,060.49 - 1,366.40 kgf-cm) です。

取り付けは、取り外しの逆の方法で行ってくだ
さい。

ロータリーナイフの研磨

⚠ 注意

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

⚠ 注意

ロータリーナイフは、磨耗が進んだり、破損した場合は、セイル部と平坦部との間に割れ目やちぎれが発生します。
ロータリーナイフが回転中にちぎれて飛び出す場合がありますので、十分に気をつけてください。

⚠ 注意

ロータリーナイフの研磨は、必ず保護メガネ、手袋を着用して行ってください。

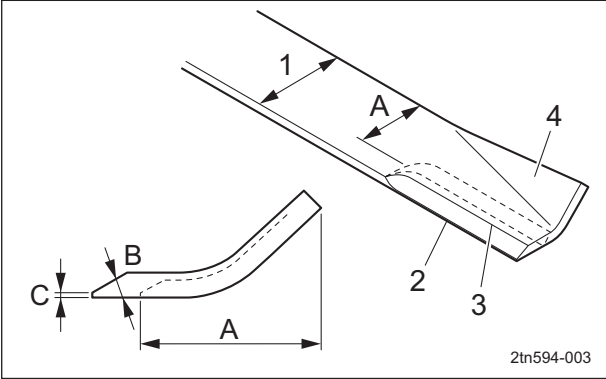
重要

ロータリーナイフはバランスが崩れたまま使用すると、振動が出て機械が破損します。

ロータリーナイフの研磨とは、ロータリーナイフの刃先が丸みを帯びて切りづらくなった場合、刃先の減ったところをグラインダーまたは、サンダーにて削り、研ぐ作業のことです。
刃先が欠けたり、薄くなった場合は、新しいロータリーナイフに交換してください。
ロータリーナイフの研磨が行える基準は、以下のとおりです。

1. 研磨後、ロータリーナイフの刃先までの幅が、新品の全幅の 2/3 以上残る場合。

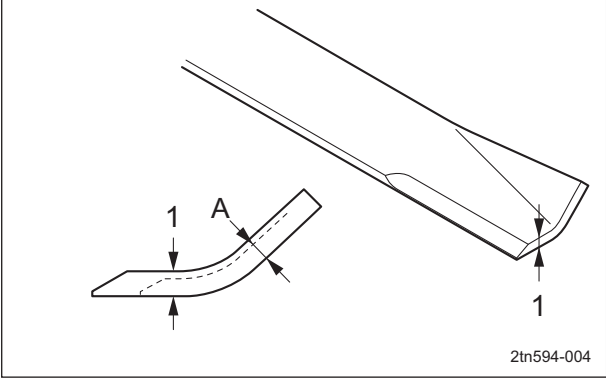
2. 研磨後、ロータリーナイフの刃元が、セイル部にかからない場合。



ロータリーナイフの研磨_001

1	全幅
2	刃先
3	刃元
4	セイル部
A	2/3 以上
B	30 - 40°
C	0.5 - 1.0 mm (0.02 - 0.04 in)

3. ロータリーナイフの最も薄い場所の板厚が、新品の板厚の 1/3 以上残っている場合。



ロータリーナイフの研磨_002

1	板厚
A	1/3 以上

ロータリーナイフの研磨は、以下の手順で行ってください。

1. ロータリーナイフをモアデッキから取り外してください。

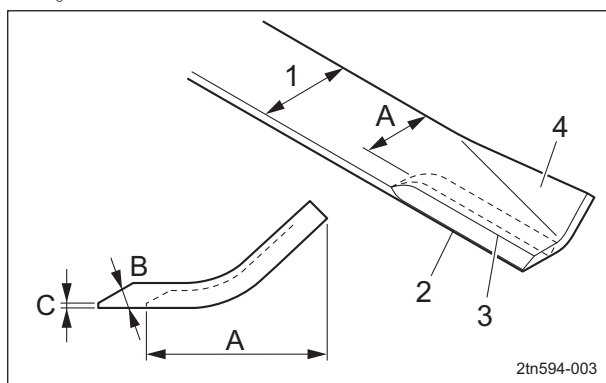
「ロータリーナイフの交換」(Page 5-8)

重要

研磨は、刃先の上面のみに行い、刃先の元々の角度を変えないように注意してください。

ロータリーナイフの左右を均等に削れば、バランスを狂わすことなく研磨を行うことができます。

2. ロータリーナイフの刃先を研磨してください。
刃先の角度は $30 - 40^\circ$ 、刃の先端の厚みは $0.5 - 1.0 \text{ mm}$ ($0.02 - 0.04 \text{ in}$) とし、刃元がセイル部にかからないように研磨してください。



ロータリーナイフの研磨_003

1	全幅
2	刃先
3	刃元
4	セイル部
A	$2/3$ 以上
B	$30 - 40^\circ$
C	$0.5 - 1.0 \text{ mm}$ ($0.02 - 0.04 \text{ in}$)

3. バランス取りを行ってください。
「ロータリーナイフのバランス取り」(Page 5-11)

4. バランスが取れていない場合は、2. - 3. を繰り返し行ってください。

ロータリーナイフのバランス取り

注意

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

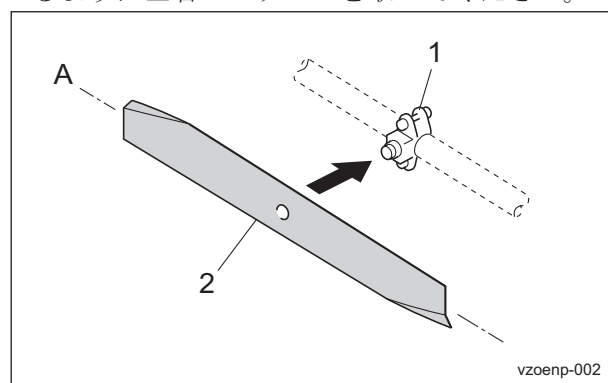
重要

ロータリーナイフはバランスが崩れたまま使用すると、振動が出て機械が破損します。

バランス取りとは、ロータリーナイフが片減りして振動が出たり、切れ味が悪くなり研磨した場合に、ロータリーナイフをモアデッキから取り外してバランスを取る作業のことです。

ロータリーナイフのバランス取りは、以下の手順で行ってください。

1. ロータリーナイフをモアデッキから取り外してください。
「ロータリーナイフの交換」(Page 5-8)
2. バランス取り装置を適当な場所に取り付けてください。
3. ロータリーナイフの中央の穴をバランス取り装置にはめ込み、ロータリーナイフが水平になるように左右のバランスを取ってください。



ロータリーナイフのバランス取り_001

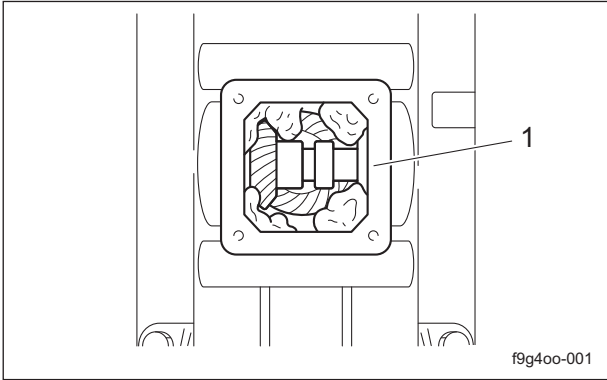
1	バランス取り装置
2	ロータリーナイフ
A	水平

メンテナンス

刈刃ギヤケースのグリース交換

刈刃ギヤケース内のグリースは、300 時間または 1 年ごと交換してください。

グリースの種類	パイロノック CC0 号
グリースの量	140 - 150 g



刈刃ギヤケースのグリース交換_001

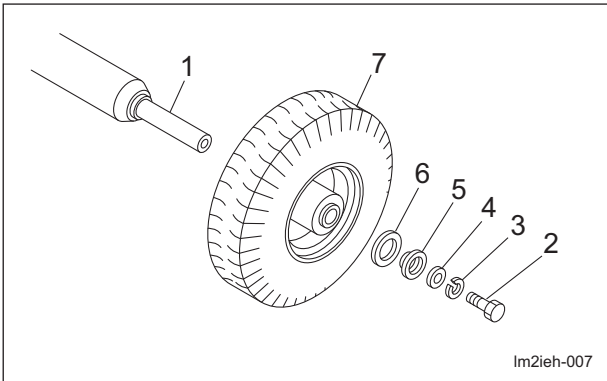
1	刈刃ギヤケース
---	---------

タイヤの脱着

前輪タイヤ

前輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. 前輪取り付け部のジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、タイヤが浮くまで上げます。
「ジャッキアップポイント」(Page 5-5)
2. 前輪取り付け軸のボルト、S ワッシャー、座金、車軸カラー、防塵シールを取り外します。
3. タイヤを引き抜いて、取り外します。



前輪タイヤ_001

1	前輪取り付け軸
2	ボルト
3	S ワッシャー
4	座金
5	車軸カラー
6	防塵シール
7	前輪タイヤ

重要

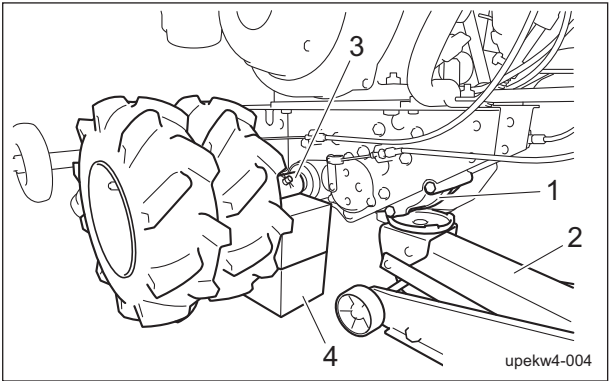
タイヤには向きがあります。
取り付ける場合は、空気注入口を外側にしてタイヤを取り付けてください。

前輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

後輪タイヤ

後輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. 駐車ブレーキをかけます。
2. ギヤケース Assy 下部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。
「ジャッキアップポイント」(Page 5-5)
3. 後輪取り付け軸の下に木片を置き、機械を安定させます。

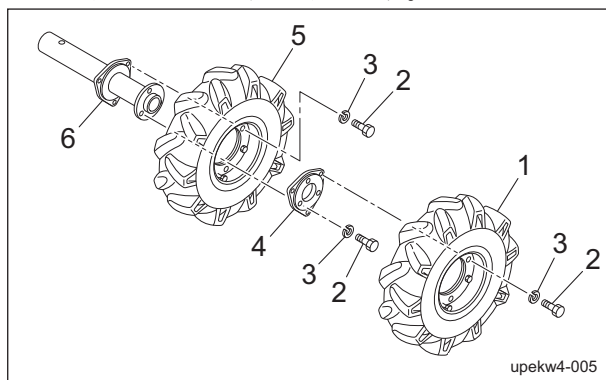


後輪タイヤ_001

1	ギヤケース Assy
2	ジャッキ
3	後輪取り付け軸
4	木片

4. 外側のタイヤを取り付けているボルト、S ワッシャー各 3 本を取り外し、外側のタイヤを取り外します。
5. 外車輪取り付け座を取り付けているボルト、S ワッシャー各 3 本を取り外し、外車輪取り付け座を取り外します。

6. 内側のタイヤを取り付けているボルト、S ワッシャー各 3 本を取り外します。
7. 内側のタイヤを取り外します。



後輪タイヤ_002

1	後輪タイヤ（外側）
2	ボルト
3	S ワッシャー
4	外車輪取り付け座
5	後輪タイヤ（内側）
6	内車輪取り付け座

後輪タイヤの取り付けは、以下の手順で行います。

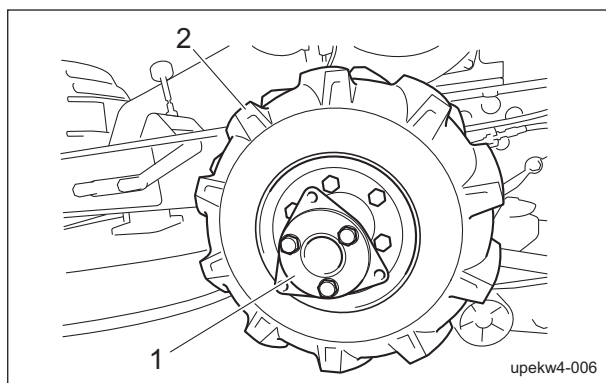
重要

外車輪取り付け座には向きがあります。丸い段がある面を外側にして取り付けてください。

重要

タイヤには向きがあります。取り付ける場合は、空気注入口の向きに注意してください。

- ・ 内側タイヤ=内向き
- ・ 外側タイヤ=外向き

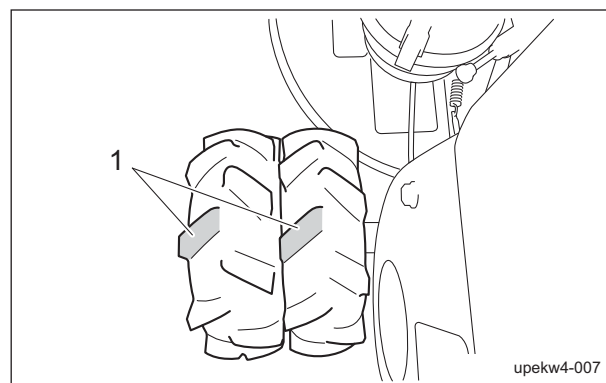


後輪タイヤ_003

1	外車輪取り付け座
2	後輪タイヤ（内側）

重要

内側のタイヤと外側のタイヤのラグの位置を一致させて取り付けてください。



後輪タイヤ_004

1	ラグ
---	----

後輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

ベルトの張り調整**警告**

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。

警告

カバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

重要

ベルトの張りは、調整値を確認してください。規定値であるかの確認は、ベルトを数回転させた後に行ってください。

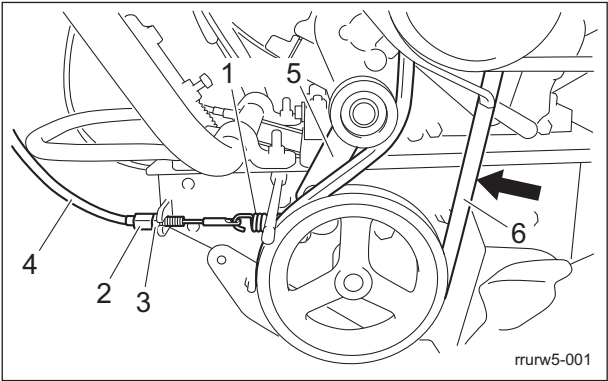
使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

メンテナンス

走行用ベルト

走行主クラッチレバーを入れたり切ったりして、以下のことを確認してください。

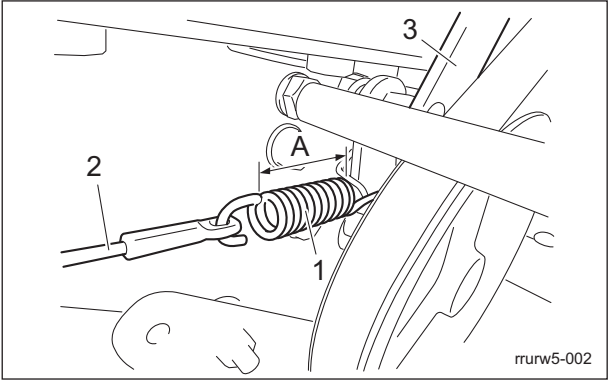
- ・テンションレバーが正常に動くこと。
 - ・Uフックバネが適正に張られていること。
1. 走行主クラッチレバーを「入」の位置にし、ベルトの張り具合を確認してください。
ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央（イラストの矢印部）を指で軽く 25 N（2.5 kgf）で押さえて 5.0 mm（0.20 in）たわむ程度であれば適正です。



走行用ベルト_001

1	U フックバネ
2	アジャストボルト
3	ナット
4	走行ワイヤー
5	テンションレバー
6	走行用ベルト

2. ベルトがたわみ過ぎている場合は、走行ワイヤーのナットを緩め、アジャストボルトで調整します。
走行主クラッチレバーを「入」の位置にし、Uフックバネのコイル部分の長さが 41.0 mm（1.61 in）になるように調節した後、ナットで固定してください。



走行用ベルト_002

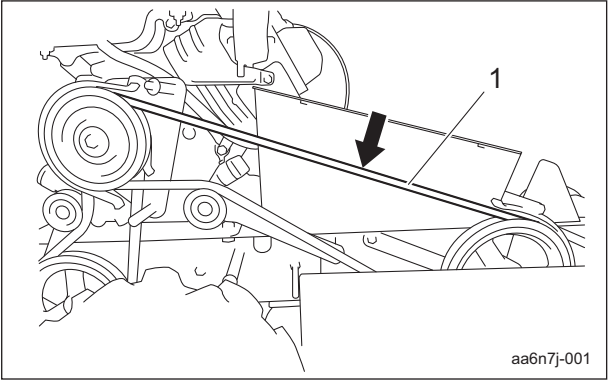
1	U フックバネ
2	走行ワイヤー
3	テンションレバー
A	41.0 mm（1.61 in）

3. 2 の調整後は、再度ベルトの張り具合を確認してください。
ベルトの張りが適正值でない場合は、ベルトを新品と交換してください。

刈刃用ベルト

刈刃主クラッチレバーを入れたり切ったりして、以下のことを確認してください。

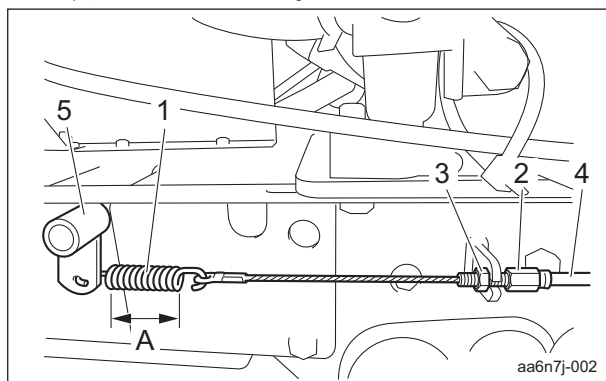
- ・テンションレバーが正常に動くこと。
 - ・Uフックバネが適正に張られていること。
1. 刈刃主クラッチレバーを「入」の位置にし、ベルトの張り具合を確認してください。
ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央（イラストの矢印部）を指で軽く 25 N（2.5 kgf）で押さえて 20.0 mm（0.79 in）たわむ程度であれば適正です。



刈刃用ベルト_001

1	刈刃用ベルト
---	--------

2. ベルトがたわみ過ぎている場合は、刈刃ワイヤーのナットを緩め、アジャストボルトで調整します。
調整する刈刃ワイヤーは刈刃用ベルトの反対側にあります。
刈刃主クラッチレバーを「入」の位置にし、Uフックバネのコイル部分の長さが 47.0 mm (1.85 in) になるように調節した後、ナットで固定してください。



刈刃用ベルト_002

1	U フックバネ
2	アジャストボルト
3	ナット
4	刈刃ワイヤー
5	テンションレバー
A	47.0 mm (1.85 in)

3. 2 の調整後は、再度ベルトの張り具合を確認してください。
ベルトの張りが適正値でない場合は、ベルトを新品と交換してください。

ブレーキの調整

⚠ 注意

ブレーキワイヤーが切れると、機械は停止不能となります。
亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

⚠ 注意

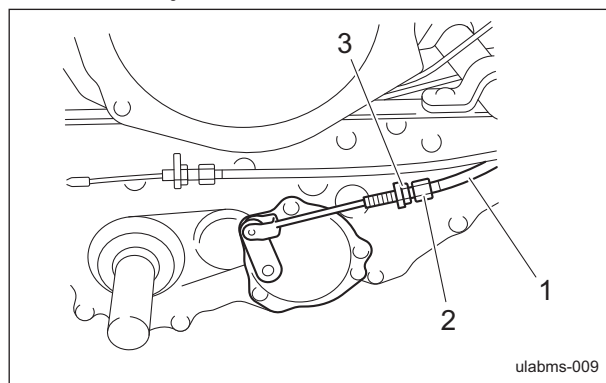
ブレーキをかけても、ブレーキの効きが悪くなったら、ブレーキワイヤーの調整をしてください。

重要

ワイヤーの引きすぎは、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。

ブレーキは、ブレーキワイヤーのアジャストボルトで調整してください。

1. ブレーキレバーをロックしてください。
2. ロックナットを緩め、アジャストボルトをブレーキが効く位置に調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。
3. ブレーキレバーのロックを解除したときに、ブレーキシューがブレーキドラムに当たっていないことを確認してください。
ブレーキの引きずりを防止します。
4. ブレーキレバーを握り、ロックできるか確認してください。



ブレーキの調整_001

1	ブレーキワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット

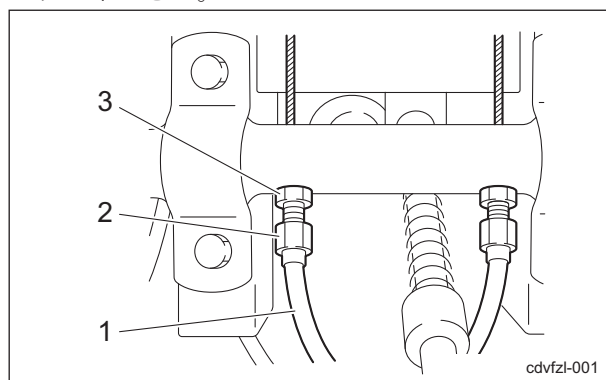
操向クラッチの調整

重要

ワイヤーの引きすぎは、クラッチ破損の原因になります。

操向クラッチは、操向クラッチワイヤーのアジャストボルトで調整してください。

1. ロックナットを緩め、アジャストボルトを左に回してクラッチワイヤーを張り、クラッチが効く位置に調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。



操向クラッチの調整_001

1	クラッチワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット

- 参考：
アジャストボルトは、右側がクラッチワイヤー左、左側がクラッチワイヤー右です。
2. 操向クラッチレバーを握り、操向クラッチが効くことを確認してください。

エアクリーナーの交換

- エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。
1. エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。
- [1] エアクリーナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
 - [2] 汚れの多い場合は、規定時間に達していなくても交換してください。
2. エアクリーナーエレメントの交換は、エアクリーナーの清掃と同様の手順で行ってください。
- 「エアクリーナーの清掃」(Page 4-3)

エンジンオイルの交換



注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。



重要

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。



重要

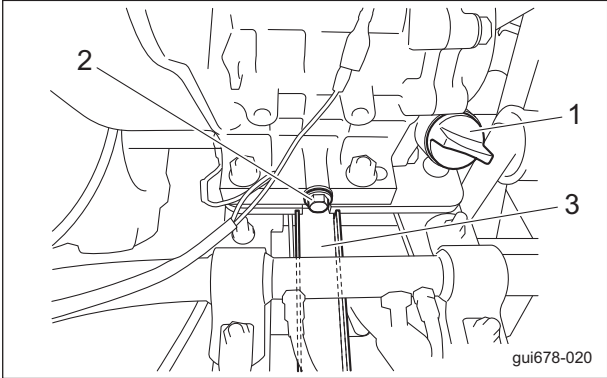
エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。



重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

- エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。
1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。
 2. 排油樋（付属品）をセットしてください。
 3. エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを取り外し、エンジンオイルを容器に抜き取ってください。
 4. ドレンプラグをエンジンに再度取り付けてください。
 5. オイルレベルゲージを取り外してください。
 6. オイル注入口から新しいエンジンオイルを入れてください。
エンジンオイル量は、1.0 dm³ (1.0 L) です。
 7. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの交換_001

1	オイルレベルゲージ（オイル注入口）
2	ドレンプラグ
3	排油樋

8. オイルレベルゲージで量を確認した後、不足していれば追加してください。
9. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。

ミッションオイルの交換

⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

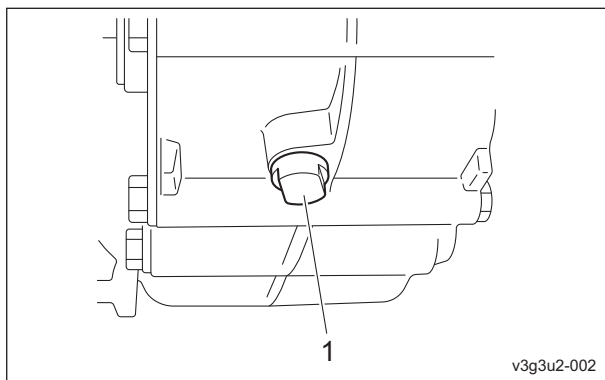
ミッションオイルを交換する場合は、ミッションオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

ミッションオイルは、自動車用ギヤオイルで、SAE 粘度分類の 90 番を使用してください。

ミッションオイルは、一回目は使用 50 時間後に、2 回目以降は 200 時間または 1 年のいずれか早い周期で全量交換してください。

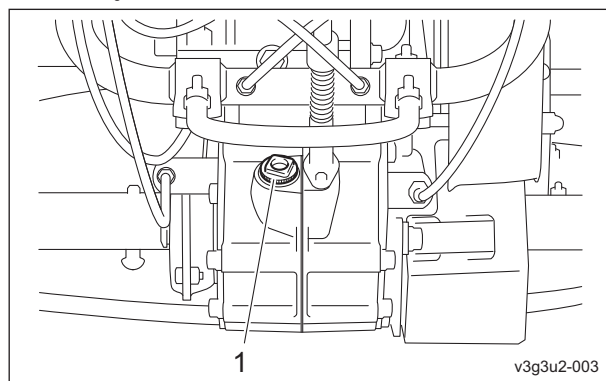
1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを止めてください。
2. ミッションオイルが温まっている間に排油栓を取り外し、ミッションオイルを容器に抜き取ってください。



ミッションオイルの交換_001

1	排油栓
---	-----

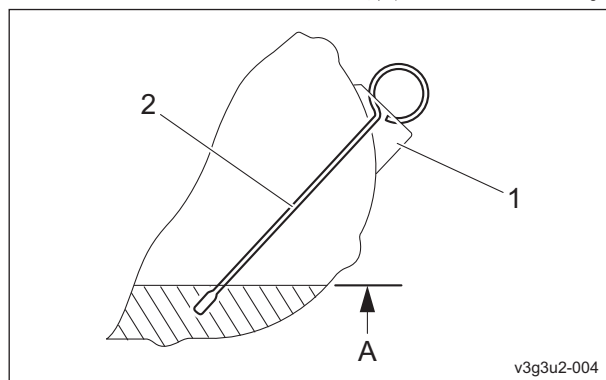
3. 排油栓を再度取り付け、注油栓を取り外してください。



ミッションオイルの交換_002

1	注油栓
---	-----

4. 注油口より、新しいミッションオイルを入れてください。
ミッションオイル量は、0.8 dm³ (0.8 L) です。
5. 付属のオイルゲージで、ミッションオイルが既定量まで入っていることを確認してください。



ミッションオイルの交換_003

1	注油口
2	オイルゲージ (付属品)
A	既定量

6. 注油栓を取り付けてください。

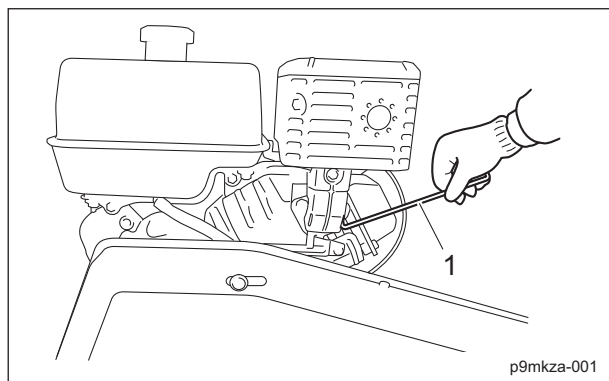
メンテナンス

シリンダーヘッドの清掃

シリンダーヘッドに刈草がつまると、エンジンがオーバーヒートする場合がありますので、シリンダーヘッド掃除金（付属工具）で取り除いてください。

⚠ 注意

ヤケドをするおそれがありますので過熱部が十分冷めるのを待って取り除いてください。



シリンダーヘッドの清掃_001

1	シリンダーヘッド掃除金
---	-------------



株 式 会 社 共 栄 社

〒442- 8530
愛知県豊川市美幸町1- 26

TEL (0533) 84 - 1221
FAX (0533) 84 - 1220